

みんなでふれあい 支えあう  
つなごう地域の力

## 第3期

# 士別市地域福祉実践計画

令和2（2020）年度～令和6（2024）年度



ふれあいネットワーク

社会福祉法人 士別市社会福祉協議会

# 目 次

## 第1章 実践計画のねらい

1. 実践計画策定の背景と目的 .....	1
2. 実践計画の位置づけ .....	1
3. 実践計画の期間 .....	2
4. 基本理念 .....	2
5. 実践計画の推進 .....	2

## 第2章 地域福祉の現状と課題

1. 士別市における地域福祉の現状と士別市社会福祉協議会の課題 .....	3
---------------------------------------	---

## 第3章 基本目標 .....

1. 推進施策（推進項目） .....	5
基本目標 1 つながり・支えあいによる暮らしやすい地域づくりの推進 .....	6
基本目標 2 誰もが気軽に情報の提供や相談できる体制づくりの推進 .....	10
基本目標 3 安全・安心して暮らせる地域づくりの推進 .....	13
基本目標 4 地域を支えるボランティアの育成と福祉教育の推進 .....	17
基本目標 5 地域から信頼される組織づくりの推進 .....	20

## 資料編

1. 第3期士別市地域福祉実践計画アンケート調査結果について .....	25
--------------------------------------	----

# 第 1 章 実践計画のねらい

## 1 実践計画策定の背景と目的

急速な少子高齢化社会への移行、核家族化の進行や人口減少社会の到来などにより、地域社会や家庭の様相は大きく変化しており、地域における住民相互のつながりの希薄化などを背景に地域社会を取り巻く環境や近年頻発している災害等は質的に異なる大きな生活課題を生じさせており、公的な福祉サービスだけでは十分に対応することができない課題や福祉に関するニーズも増大・多様化しております。

このように増大・多様化している福祉課題への対応として、地域住民相互の「つながり」の再構築を図り、高齢者や障がい者、児童等を含め、すべての人々が地域・暮らし・生きがいを共に創り、高めあうことのできる「地域共生社会」という考えのもとに真の地域福祉社会の実現に向けた新しいコミュニティづくりへの取り組みが求められています。

このような状況のなかで、士別市が策定した「地域福祉計画」との整合性を図りつつ、すべての市民が生活の拠点である住み慣れた地域で安心した暮らしができるよう、地域福祉関連施策の推進と仕組みづくりを通して、幅広い市民の主体的な参加と市民・事業者・行政協働のもとに、「共に生き・共に支えあうまちづくり」を実現することを目指し「第3期地域福祉実践計画」を策定いたしました。

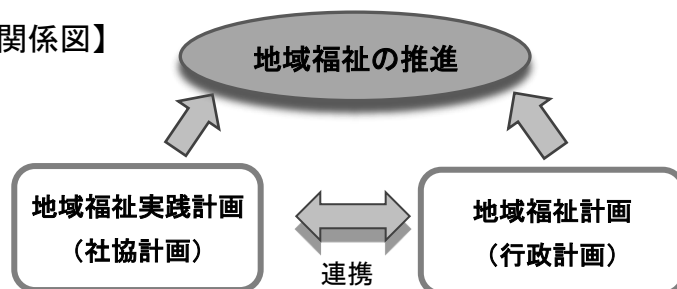
## 2 実践計画の位置づけ（「第4期士別市地域福祉計画」との関係）

士別市では、「士別市まちづくり総合計画」を策定し、総合的な行政政策の方向性を示しています。

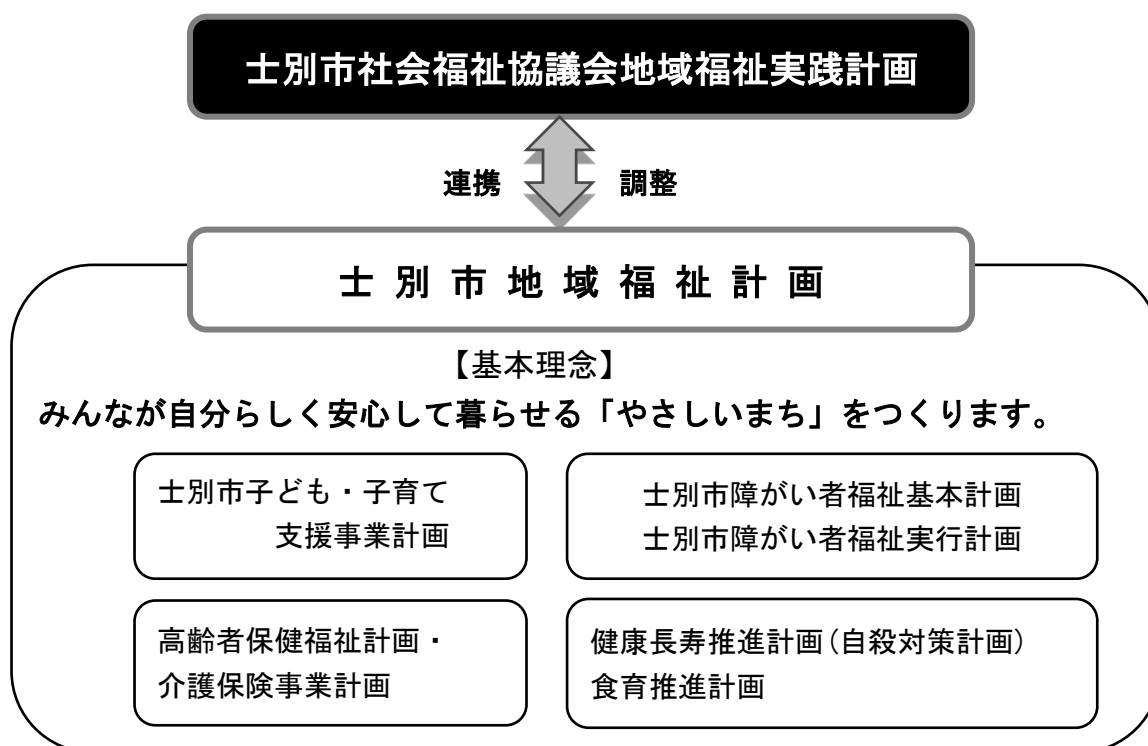
また、この計画を上位計画として、社会福祉法第107条に基づき、「士別市地域福祉計画」が策定されています。

今回、社会福祉協議会が策定する「第3期地域福祉実践計画」は、行政計画の理念を実現するための、具体的な地域福祉活動を推進していく民間の行動計画です。行政が策定した「第4期地域福祉計画」と、社会福祉協議会が策定した「第3期地域福祉実践計画」が相互に連携を図りながら、士別市の福祉のまちづくりを進めます。

【地域福祉実践計画と地域福祉計画の関係図】



【関連する士別市保健福祉分野の各種計画関係図】



### 3 実践計画の期間

計画期間は、令和2(2020)年度から、令和6(2024)年度までの5か年とします。  
但し、社会経済情勢、福祉諸制度の改革に対応できるよう、毎年計画の進捗状況の検証や見直しを行い、実効ある計画とします。

### 4 基本理念

**みんなでふれあい 支えあう つなごう地域の力**

### 5 実践計画の推進

誰もが住み慣れた地域で自立し、安心して生活できる地域社会の実現を目指し、市民一人ひとりが、ともに支えあっていくことのできるつながりを、地域の中で築き上げていくことが必要です。

社会福祉協議会は、こうした地域社会の構築を図るため、「みんなでふれあい 支えあう つなごう地域の力」を基本理念として、「第3期士別市地域福祉実践計画」を推進します。

## 第 2 章 地域福祉の現状と課題

### 1 士別市における地域福祉の現状と士別市社会福祉協議会の課題

士別市においても急速な少子高齢化、過疎化が進む中で核家族化や人々の価値観、生活様式の多様化などにより、家庭及び地域のつながりが希薄化し、隣近所が相互に支えあい暮らしてきた、かつての地域社会は変化しており、高齢者等の孤立化や孤独死なども発生しております。

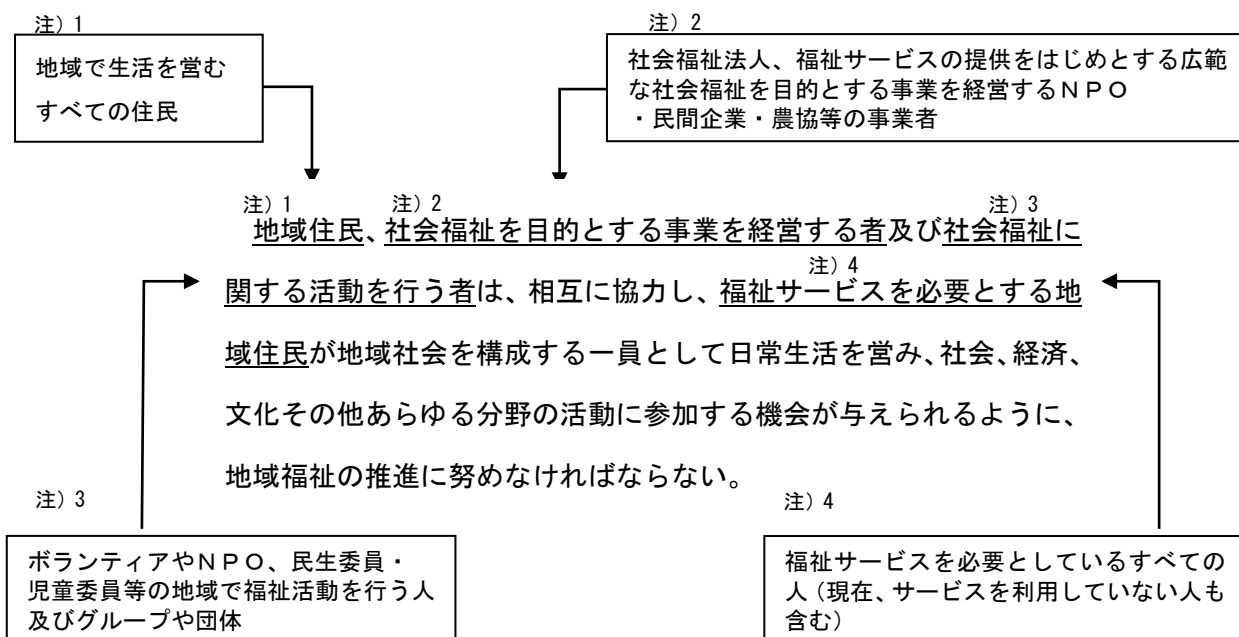
また、介護のストレスや養育力の低下等を要因とする、高齢者や子ども等の虐待、併せて引きこもり等の社会問題も顕在化するとともに、災害時における障がい者及び高齢者等の速やかな支援なども懸念されております。

財政面については、介護保険事業収入、士別市における社会福祉事業等の見直しなどにより財政基盤はまだまだ不透明な環境におかれており、今後も引き続き安定した財政基盤の確立への対応が大きな課題のひとつとして挙げられます。

また、地域共生社会の実現に向けた新たな福祉課題に対応するため、職員の資質向上や専門性のあるスタッフの養成・確保も大きな課題です。

こうした状況の改善を目指し、本会は、地域福祉を推進する中核的団体としてこれまでの地域福祉実践計画の基本理念を継承しつつ、一方でその計画の検証とともに、市民ニーズを踏まえ、市民・行政・関係団体等と連携し、地域共生社会の実現に向けて、「あらゆる生活課題への対応」と「地域とのつながりの再構築」実現のため福祉のまちづくりを更に推進してまいります。

#### 【社会福祉法第 4 条 地域福祉の推進】



## 第 3 章 基本目標

基本理念をより具体化し、実践しやすくするために、次の5つの基本目標を柱にして推進します。

### 基本目標 1 つながり・支えあいによる暮らしやすい地域づくりの推進

誰もが地域の福祉を考え、支援を必要とする方々を地域における人と人とのつながりのもと、見守り支えあえる地域づくりを目指します。

### 基本目標 2 誰もが気軽に情報の提供や相談できる体制づくりの推進

わかりやすい福祉情報の提供と、誰もが気軽に相談できる仕組みづくりを進めます。

### 基本目標 3 安全・安心して暮らせる地域づくりの推進

利用者が求めている福祉サービスを適切且つ安心して受けることができるよう、サービス体制のさらなる充実を進めます。

### 基本目標 4 地域を支えるボランティアの育成と福祉教育の推進

ボランティア活動による地域福祉を推進し、住民主体の福祉のまちづくりを進めます。

### 基本目標 5 地域から信頼される組織づくりの推進

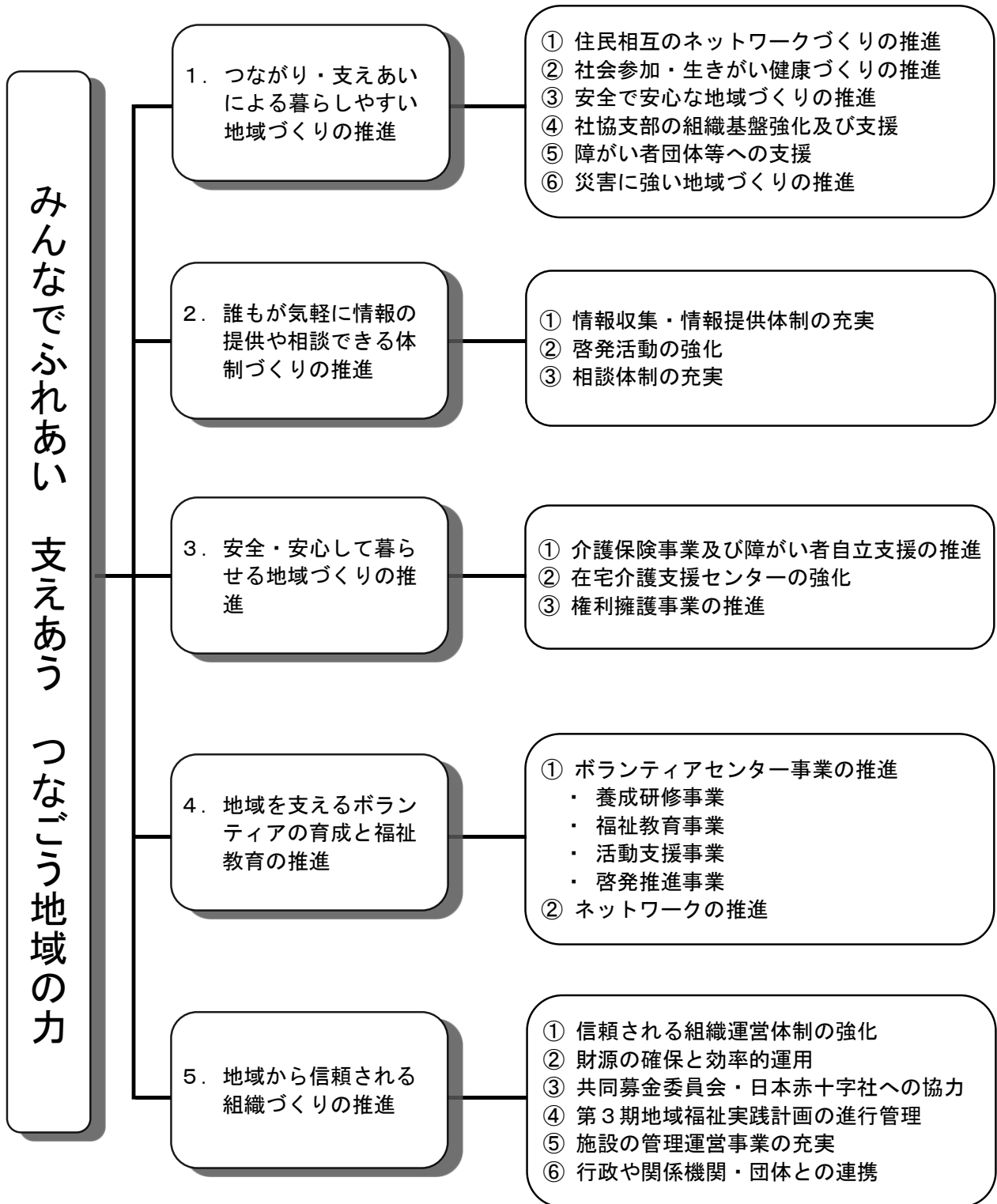
地域福祉を推進する中核的組織として、社協活動を実践していくとともに、地域に信頼される組織・運営体制の強化と中期的に安定した、財政運営の確立に努めます。

# 1. 推進施策（推進項目）

## 【基本理念】

## 【基本目標】

## 【推進項目】



基本目標 1	つながり・支えあいによる暮らしやすい地域づくりの推進
<p>社会情勢の変化により、少子高齢化が進み、地域社会の繋がりが希薄になってきている現代ですが、自然災害や犯罪の増加もあり、改めて、誰もが安心して地域で生活できるように地域住民を主体とした互いに「支えあえる」地域のかたちが重要になってきています。</p> <p>そのために、地域での見守りや支え合い、身近な交流を深める居場所づくりとして、小地域ネットワーク推進事業の拡充やサロン活動の開催支援等を通し、住民相互のネットワークづくりを推進し、地域で暮らす多様な人々がいきいきと活動できるような機会を進めていきます。</p> <p>さらに、災害時などの「まさか」の時にも強い地域を作っていくために、市・社協各支部・各関係機関や団体・企業等と連携を取りながら、地域住民の防災意識や受援力を高め、いざというときにも地域住民が主体的に助け合えるような日頃からの支え合い活動を推進していきます。</p>	
推進項目	
① 住民相互のネットワークづくりの推進	
<p>自治会等の小地域を基盤として、同じ地域の中で支援が必要な方々の生活を見守り、また互いに支え合うことのできる仕組みや機会、居場所を作ることで、住民相互のネットワークづくりを推進します。</p>	
(1) 小地域ネットワーク推進事業の実施	
<p>自治会等の小地域を基盤として、同じ地域の中で互いに支え合うことで、地域全体を繋ぐ住民相互のネットワーク活動が定着するよう更に推進します。</p>	
(2) 福祉パトロール事業の充実	
<p>支援が必要な方々が住み慣れた地域で安心して暮らすために、自治会を中心とし、民生委員等が連携して、家庭訪問や電話連絡等による見守り安否確認活動を推進します。</p>	
(3) 地域サロン開催支援事業の推進	
<p>自治会等の地域が主体となり、参加者（地域住民）が互いに見守り合い、身近な交流を深める居場所づくりを推進できるよう支援していきます。</p>	
(4) 地域助け合い活動協議体実施事業への推進協力	
<p>実施主体である「地域助け合い活動協議体」と連携しながら、以下の事業を推進協力していきます。</p> <p>○買い物サポート事業への推進協力  高齢者等「1人でバスやタクシーを使って買い物に行くことが不安だ」「買った荷物を1人で家に持って帰るのは大変だ」という理由で、買い物に行くことが困難な方に対し、市民が担う「買い物サポーター」が、一緒に会話をしながら利用者の自宅とお店を往復し、買い物を手助けすることを目的に推進協力していきます。</p> <p>○地域食堂開催協力  「地域住民の居場所・繋がりづくり」を目的に、開催推進協力をしていきます。</p>	



(5) ふれあい昼食会の実施
② 社会参加・生きがい健康づくりの推進
(1) ふれあい広場の実施
<p>様々な福祉ボランティア団体・学校・関係機関などから結成した実行委員会を運営主体として、障がいの有無や年齢にかかわらず、多様な人が地域づくりを通して社会参加をしていくことで、住民自らがノーマライゼーションの考え方を普及定着することを目的として事業の展開を図ります。</p>
(2) 共同募金運動への参加協力
<p>士別市の様々な地域福祉活動や北海道内の災害時の準備金等に活用される共同募金運動を、自治会・事業所（企業）・学校等、多くの市民（ボランティア）と共に参加協力を進めていきます。</p>
③ 安全で安心な地域づくりの推進
<p>子どもや高齢者、障がいがある方等を含めた、地域で生活している誰もが安心して暮らせる地域づくりを、各関係機関・団体と連携しながら推進します。</p>
(1) 声かけ、見守り活動の推進
(2) 防犯意識の向上
(3) 企業と連携した除雪支援
<p>登録企業等と連携し、自力で除排雪が困難な独居高齢者や障がい者の方を対象に、除排雪支援を実施します。</p>
(4) 地域、行政機関等との情報の共有化
(5) 歳末たすけあい運動の推進
④ 社協支部の組織基盤強化及び支援
<p>中央地区及び、朝日・上士別・温根別・多寄の各地区にそれぞれ社協支部を置き、各支部間で情報を共有・交換しながら、各々の地域性に沿った、より具体的な活動を推進していきます。</p>
(1) 社協支部活動の推進
(2) 社協支部活動推進助成
(3) 各支部間の情報の共有化

⑤ 障がい者団体等への支援
ノーマライゼーションの考えのもと、障がいがあっても地域で自分らしく暮らしていける地域づくりを、各種団体と連携しながら推進していきます。
(1) 障がい者団体等活動推進助成
(2) 各種研修会等への参加促進
(3) 福祉の店シュベツ運営支援
(4) 職親会との連携による障がい者雇用支援
⑥ 災害に強い地域づくりの推進
災害時などの「まさか」の時に備えるため、各関係機関・団体と連携をとりながら、地域住民の防災意識や受援力を高め、いざというときにも地域住民が主体的に助け合えるような、日頃からの支え合い活動を推進していきます。
(1) 防災関連会議等への参画
防災関連会議等の各種会議へ参加し、土別市等と連携しながら防災関連の情報を共有します。
(2) 災害ボランティアセンター体制整備
実際に災害ボランティアセンターを設置する際に、スムーズに立ち上げ、ボランティアの受入等ができる準備として、災害ボランティアセンターマニュアルの見直しや、他市町村の立ち上げ訓練等の視察・体験を行い、体制整備を進めていきます。
(3) 災害に強い地域づくり研修会の実施
地域住民の防災意識を高め、日頃からの地域の繋がり・支え合いの重要性を再認識し、災害時等のまさかの時にも住民同士で主体的に助け合えるような、「災害の時にも強い地域づくり」を進めていきます。
(4) 防災備品等の整備
(5) 他市町村社協との情報共有・連携強化
(6) 社協支部・関係団体等との情報共有



## 推進項目／年次計画

事業項目 事業内容	方向性	年次計画				
		R2	R3	R4	R5	R6
① 住民相互のネットワークづくりの推進						
(1) 小地域ネットワーク推進事業の実施	拡大	○	○	○	○	○
(2) 福祉パトロール事業の充実	継続	○	○	○	○	○
(3) 地域サロン開催支援事業の推進	継続	○	○	○	○	○
(4) 地域助け合い活動協議体実施事業への推進協力						
○買い物サポート事業への推進協力	新規	○	○	○	○	○
○地域食堂開催協力	新規	○	○	○	○	○
(5) ふれあい昼食会の実施	継続	○	○	○	○	○
② 社会参加・生きがい健康づくりの推進						
(1) ふれあい広場の実施	継続	○	○	○	○	○
(2) 共同募金運動への参加協力	継続	○	○	○	○	○
③ 安全で安心な地域づくりの推進						
(1) 声かけ、見守り活動の推進	継続	○	○	○	○	○
(2) 防犯意識の向上	継続	○	○	○	○	○
(3) 企業と連携した除雪支援	継続	○	○	○	○	○
(4) 地域、行政機関等との情報の共有化	継続	○	○	○	○	○
(5) 歳末たすけあい運動の推進	継続	○	○	○	○	○
④ 社協支部の組織基盤強化及び支援						
(1) 社協支部活動の推進	継続	○	○	○	○	○
(2) 社協支部活動推進助成	継続	○	○	○	○	○
(3) 各支部間の情報の共有化	継続	○	○	○	○	○
⑤ 障がい者団体等への支援						
(1) 障がい者団体等活動推進助成	継続	○	○	○	○	○
(2) 各種研修会等への参加促進	継続	○	○	○	○	○
(3) 福祉の店シュペツ運営支援	継続	○	○	○	○	○
(4) 職親会との連携による障がい者雇用支援	継続	○	○	○	○	○
⑥ 災害に強い地域づくりの推進						
(1) 防災関連会議等への参画	継続	○	○	○	○	○
(2) 災害ボランティアセンター体制整備	作成検証	○	○	○	○	○
(3) 災害に強い地域づくり研修会の実施	継続	○	○	○	○	○
(4) 防災備品等の整備	継続	○	○	○	○	○
(5) 他市町村社協との情報共有・連携強化	継続	○	○	○	○	○
(6) 社協支部・関係団体等との情報共有	継続	○	○	○	○	○

<b>基本目標 2</b>	<b>誰もが気軽に情報の提供や相談できる体制づくりの推進</b>
<p>市民の地域福祉に関する理解がより深まるよう、社協だよりやホームページなどでの広報・周知を強化し、福祉サービスの情報を適切に伝えるとともに地域福祉活動、ボランティア活動への参加促進を図り、市民から信頼され支持される組織づくりに努めます。</p> <p>また、市民が気軽に相談できるよう、総合相談窓口を充実するとともに、職員の相談支援の専門性と資質を向上させ、合わせて関係機関等と連携し、相談体制のネットワーク化を図り、判断能力が不十分な人や日常生活に不安のある人が地域で安心して生活することができるよう、必要な支援体制の充実を図ります。</p>	
<b>推進項目</b>	
<b>① 情報収集・情報提供体制の充実</b>	
<p><b>(1) 地域における情報収集の仕組みづくり</b></p> <p>福祉活動を推進するためには、適切な情報の共有化と身近な生活課題や福祉ニーズの把握のための仕組みづくりが必要であります。</p> <p>このため、行政との連携を密にするとともに、関係団体で構成する各種会議・研修会への参加と、さらには、土別市地域福祉実践計画策定懇談会を通じ、積極的な情報の収集を図ります。</p>	
<p><b>(2) 広報誌「社協だより」の充実強化</b></p> <p>地域福祉活動の取り組みや福祉サービスを、広く市民に情報発信し理解を得るために「社協だより」を発行し、わかりやすい紙面の工夫や内容の充実を図ります。</p>	
<p><b>(3) 社協ホームページを活用した情報発信</b></p> <p>社協で実施している事業の取り組みや地域福祉・ボランティア研修会の開催などの情報をいち早く情報発信を行います。</p> <p>また、SNSを活用した情報発信について検討・実施します。</p>	
<p><b>(4) 福祉PRパンフレットの充実</b></p> <p>社会福祉協議会の事業及び福祉サービスを紹介するパンフレット・リーフレットを作成し、本会事業への理解と関心を深めるよう努めてまいります。</p>	
<p><b>(5) 市民が集う場を活用した情報提供</b></p> <p>各種の総会、会議、研修会など市民が集まる機会を利用してわかりやすく地域福祉事業や福祉サービス事業の情報提供に努めます。</p>	
<b>② 啓発活動の強化</b>	
<p><b>(1) フットワークを生かした啓発活動の強化</b></p> <p>社協が持つ福祉関連情報の提供や地域福祉活動・ボランティア活動の推進と社協活動への理解を深めるため、職員が直接地域に出向く「出前講座」の活用促進など、フットワークを生かした積極的な啓発活動の強化に努めます。</p>	

### ③ 相談体制の充実

#### (1) 総合相談事業の推進

必要な人に適切にアドバイスできるよう、また必要なサービスや支援を迅速に提供できるように、気軽に相談できる体制から専門的な相談までの、総合的な相談支援体制づくりを進めます。

また、職員のスキルアップ研修等を充実し、ニーズに応じた的確な相談の対応に努めます。

#### (2) 各種相談機関ネットワーク強化

市民個々の相談に、きめ細やかな支援ができるよう行政や福祉サービス事業所及び民生委員児童委員・ボランティア等関係者との連携強化を図ります。

#### (3) 民生委員児童委員との連携

民生委員児童委員の協力による、地区での相談支援の充実を目的に地区推進委員として委嘱し、地域における相談支援の促進を図ります。

#### (4) 生活福祉資金相談対応・貸付

低所得世帯や障がい者世帯、高齢者世帯等の経済的自立のための資金貸付と相談支援を行い、民生委員児童委員等と連携のもと世帯の経済的自立や生活意欲の助長促進を図ります。



## 推進項目／年次計画

事業項目 事業内容	方向性	年次計画				
		R2	R3	R4	R5	R6
① 情報収集・情報提供体制の充実						
(1) 地域における情報収集の仕組みづくり	継続	○	○	○	○	○
(2) 広報誌「社協だより」の充実強化	継続	○	○	○	○	○
(3) 社協ホームページを活用した情報発信	継続	○	○	○	○	○
(4) 福祉PRパンフレットの充実	継続	○	○	○	○	○
(5) 市民が集う場を活用した情報提供	継続	○	○	○	○	○
② 啓発活動の強化						
(1) フットワークを生かした啓発活動の強化	継続	○	○	○	○	○
③ 相談体制の充実						
(1) 総合相談事業の推進	継続	○	○	○	○	○
(2) 各種相談機関ネットワーク強化	継続	○	○	○	○	○
(3) 民生委員児童委員との連携	継続	○	○	○	○	○
(4) 生活福祉資金相談対応・貸付	継続	○	○	○	○	○



### 基本目標 3

### 安全・安心して暮らせる地域づくりの推進

高齢者や障がい者が住み慣れた地域で、安心して自立した日常生活が営めるようサービス利用者の能力に応じた良質な介護サービスの提供を行います。

そのために介護事業の経営の安定化を図り、適任な人材確保や職員の研修等を行い資質の向上に努めるとともに、利用者にとって最良のサービスが受けられるよう地域包括支援センターや他の介護事業所と情報交換や連携を強化し相互補完の体制を推進いたします。

さらには、地域高齢者の増加に伴い新たな課題に対して、行政や関係団体と連携し積極的に取り組みます。

また、土別地域成年後見センターを拠点とし、成年後見制度と日常生活自立支援事業の利用支援を一体的に行い、要支援者の生活状況や判断能力に応じた切れ目のない包括的な支援を展開し、地域における権利擁護支援体制の構築を進めます。

さらには、市民後見人の養成講座を開催し地域における新たな担い手づくりを進めるとともに広く市民に対する成年後見制度の周知や理解促進に向けた普及や啓発を行います。

#### 推進項目

#### ① 介護保険事業及び障がい者自立支援の推進

##### (1) 訪問介護事業の推進

###### ○訪問介護事業

利用者のニーズに対応し、必要な支援（身体介護・家事支援）を状況に応じてサービス提供します。また、居宅介護支援事業所・地域包括支援センターとの連携に努めます。

###### ○自立支援サービス事業（障がい）

利用者のニーズに対応し、地域の中で自立した生活ができるよう必要なサービス（居宅介護支援・重度訪問介護・行動援護・移動入浴）を状況に応じて適切に提供します。また、地域基幹相談支援センター・市役所介護保険課との連携に努めます。

##### (2) 居宅介護支援事業の推進

要介護及び要介護支援の認定を受けた方が、介護サービスを適切に利用できるような心身及び生活環境などの状況を勘案して、ケアプランの作成を行います。また日常生活を意欲的に送ることで生活能力を維持し、できる限り住み慣れた地域で自立した生活が継続できるようにケアマネジメントを提供します。

##### (3) 訪問入浴・施設入浴事業の推進

###### ○訪問入浴事業

高齢者宅や障がい者宅に、入浴専用車で浴槽を持ち込んで入浴のサービスを提供し、入浴を通して在宅生活支援の推進を図ります。

また、居宅介護支援事業所・地域包括支援センターとの連携に努めます。

###### ○施設入浴事業

在宅で入浴が困難な障がい者や高齢者に施設の特設浴槽を使用し入浴サービスを提供し、利用者の清潔と健康を保持しながら福祉の増進を図ります。

また、市役所介護保険課、居宅介護支援事業所との連携に努めます。

<p>(4) サービスの質の向上</p> <p>各種サービス提供における質の確保や適切なサービスを提供するため、業務遂行マニュアルを充実させるとともに、定期的に関係会議を行い利用者の支援内容等の確認を行う他、研修などによる意識向上を図り、より質の高いサービスの提供に努めます。</p>
<p>(5) 各種サービスの情報提供の推進</p> <p>地域における様々な課題を専門職と地域関係者による地域ケア会議など、各種会議への参加や情報交換等で、課題解決への連携強化に努めます。</p> <p>また、社協内の連絡体制強化のもと、利用者個々のニーズに応じた様々なサービスについて情報提供を推進します。</p>
<p>② 在宅介護支援センターの強化</p>
<p>(1) 要介護高齢者の早期発見、支援</p> <p>介護を必要とする高齢者等（ひとり暮らしの方、認知症の方、虐待を受けている方、障がいのある方など）の実態を把握し、関係機関と協議・連携しながら適切な支援に取り組みます。</p>
<p>(2) 地域の相談機関とのネットワークの強化</p> <p>高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、介護支援専門員との連携やサポートを行います。また事例検討会や研修会を実施し、地域で活動する介護支援専門員の資質の向上に努め、ネットワークの強化を図ります。</p>
<p>(3) 総合相談機能の充実</p> <p>市民が相談しやすい高齢者や障がい者福祉の拠点として、実態把握や総合相談を通じた福祉サービスの調整など、地域包括支援センターとの連携を密にし、総合相談支援体制の充実を図ります。</p> <p>また、職員のスキルアップを目指し、迅速かつ的確な対応に努めます。</p>
<p>③ 権利擁護事業の推進</p>
<p>(1) 士別地域成年後見センターの運営</p> <p>認知症や知的障がい・精神障がいなどにより、判断能力が十分でない方の生活や権利と財産を守る成年後見制度の利用を円滑にできるよう支援を行い、適切な運用をします。</p>
<p>(2) 成年後見制度の普及・啓発</p> <p>出前講座等として地域に伺い、成年後見制度の説明会等を実施し、潜在化するニーズの発掘と制度の利用促進を図ります。</p>





**(3) 市民後見人の養成・活動支援**

市民後見人養成のため、養成研修を開催し、市民後見人が適切・安心して活動できるようにフォローアップ研修や後見事務に関わる相談を通じて支援します。

**(4) 運営協議会・地域連携ネットワーク会議の推進**

成年後見センターの適正な後見業務等運営に関する協議会を開催し、ネットワークづくりとして、法的専門職・地域の関係者・介護・医療・福祉の専門職と連携を図り、複雑かつ多様化する個々のニーズに対して支援する体制づくりをします。

**(5) 日常生活自立支援事業の推進**

認知症や知的障がい・精神障がいなどにより、判断能力に不安のある方に対して、福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理などを行うことにより、自立した生活が送れるよう支援します。



## 推進項目／年次計画

事業項目 事業内容	方向性	年次計画				
		R2	R3	R4	R5	R6
① 介護保険事業及び障がい者自立支援の推進						
(1) 訪問介護事業の推進						
○訪問介護事業	継続	○	○	○	○	○
○自立支援サービス事業（障がい）	継続	○	○	○	○	○
(2) 居宅介護支援事業の推進	継続	○	○	○	○	○
(3) 訪問入浴・施設入浴事業の推進						
○訪問入浴事業	継続	○	○	○	○	○
○施設入浴事業	継続	○	○	○	○	○
(4) サービスの質の向上	継続	○	○	○	○	○
(5) 各種サービスの情報提供の推進	継続	○	○	○	○	○
② 在宅介護支援センターの強化						
(1) 要援護高齢者の早期発見、支援	継続	○	○	○	○	○
(2) 地域の相談機関とのネットワークの強化	継続	○	○	○	○	○
(3) 総合相談機能の充実	継続	○	○	○	○	○
③ 権利擁護事業の推進						
(1) 士別地域成年後見センターの運営	継続	○	○	○	○	○
(2) 成年後見制度の普及・啓発	継続	○	○	○	○	○
(3) 市民後見人の養成・活動支援	新規	○	○	○	○	○
(4) 運営協議会・地域連携ネットワーク会議の推進	継続	○	○	○	○	○
(5) 日常生活自立支援事業の推進	継続	○	○	○	○	○



## 基本目標 4

## 地域を支えるボランティアの育成と福祉教育の推進

「地域福祉は、福祉教育に始まり福祉教育に終わる」と言われております。子どもから大人までの幅広い世代に、福祉ボランティアへの理解・関心を高めていくことが、地域福祉の推進に繋がっていきます。

また、少子高齢化による担い手不足も課題になっており、地域の福祉ボランティア実践者の養成を進めることも必要です。

さらに、災害時などの「まさか」の時には、市内のみならず近郊の市町村のボランティア等との助け合いも重要になってきています。

そのために、土別市ボランティアセンターを軸とし、各種ボランティア事業（研修会等）や出前講座等を実施、また多様な媒体を通してその情報発信を行うことで、地域住民に福祉ボランティア活動を身近に感じ、関心を高めていただきながら、さらに、近隣市町村のボランティアとも連携を図り、いざというときにも、互いに助け合えるようなボランティアネットワークを構築していきます。

### 推進項目

#### ① ボランティアセンター事業の推進

##### (1) 養成研修事業

多様な世代や活動領域に対応したボランティア養成を推進するために、市民のボランティア活動への関心を高め、参加する機会提供に努めます。

- 各種ボランティアスクールの実施
- ボランティア体験学習事業の実施
- 研修会等への参加

##### (2) 福祉教育事業

地域の強みに気づき、また地域課題を我が事として捉えられるような住民主体の地域づくりを進めていくために、地域を基盤とした福祉教育の機会を提供していきます。

さらに、学校や地域と連携し、将来地域の担い手となる子どもたちを対象とした福祉ボランティア事業を実施し、多様な価値観を持つ豊かな心を育てていきます。

- 土曜ボランティア学習塾さぼてん
- 福祉教育懇談会、ボランティア指定校担当者会議の実施
- ボランティア活動普及事業協力校助成
- 子どもの心を育む福祉教育の推進

##### (3) 活動支援事業

ボランティア活動サポート拠点として、機能充実を図るため、情報提供や機材整備、福祉ボランティア団体の活動助成等を実施し、福祉ボランティア（団体等）がスムーズに活動できるように支援していきます。

- 研修資機材、会場等活動拠点整備
- 活動推進助成
- ボランティア保険の加入促進

#### (4) 啓発推進事業

幅広い世代に応じた様々な媒体を通し、わかりやすく、関心を持っていただけるような、福祉ボランティアの情報発信を行います。

また、出前講座を実施することで、福祉ボランティア実践者と当事者を繋ぎ、より地域福祉を身近に感じてもらう機会を推進していきます。

- 土別市ボランティアセンター掲示板を通した情報発信
- 様々な媒体を通したわかりやすい情報発信
- 出前講座(講師等派遣)の実施

#### ② ネットワークの推進

市内ボランティア団体をはじめ、地域（自治会等）や学校・企業・さらに研修会等を通して近隣市町村のボランティア等と連携を図り、ボランティア事業の実施やボランティアの養成を日頃から行い、さらに、災害時などのまさかの時にも支え合えるネットワークを構築していきます。

##### (1) 他市町村ボランティアとの情報交換

##### (2) 団体、地域、学校、企業等との連携強化



## 推進項目／年次計画

事業項目 事業内容	方向性	年次計画				
		R2	R3	R4	R5	R6
① ボランティアセンター事業の推進						
(1) 養成研修事業						
○各種ボランティアスクールの実施	継続	○	○	○	○	○
○ボランティア体験学習事業の実施	継続	○	○	○	○	○
○研修会等への参加	継続	○	○	○	○	○
(2) 福祉教育事業						
○土曜ボランティア学習塾さぼてん	継続	○	○	○	○	○
○福祉教育懇談会、ボランティア指定校 担当者会議の実施	継続	○	○	○	○	○
○ボランティア活動普及事業協力校助成	継続	○	○	○	○	○
○子どもの心を育む福祉教育の推進	継続	○	○	○	○	○
(3) 活動支援事業						
○研修資機材、会場等活動拠点整備	継続	○	○	○	○	○
○活動推進助成	継続	○	○	○	○	○
○ボランティア保険の加入促進	継続	○	○	○	○	○
(4) 啓発推進事業						
○土別市ボランティアセンター掲示板を通じた情報発信	継続	○	○	○	○	○
○様々な媒体を通じたわかりやすい情報発信	拡大	○	○	○	○	○
○出前講座(講師等派遣)の実施	継続	○	○	○	○	○
② ネットワークの推進						
(1) 他市町村ボランティアとの情報交換	継続	○	○	○	○	○
(2) 団体、地域、学校、企業等との連携強化	継続	○	○	○	○	○



**基本目標 5****地域から信頼される組織づくりの推進**

社会福祉協議会は、公共性の高い非営利の民間福祉団体として、かつ地域福祉推進の担い手として、その中心的役割を果たしてきました。

一方、介護保険事業をはじめ、法人後見を含めた権利擁護関連事業など社会環境の変貌に応えたさらなる事業拡大を必要としています。

同時に、今後も本会をめぐる経営環境の変化に的確に対応していくとともに、合理的な組織体制を確立し、地域福祉を推進する中核的組織としての事業経営理念を明確にしながら、地域福祉活動をさらに充実させていくために、多くの市民の理解と協力を得て、地域住民から信頼される組織の運営体制の確立を目指していきます。

また、社協活動発展のために、市民の方々の会費や寄付金、共同募金助成金、介護報酬による財源確保と市補助金等による協力支援を得ながら、財政基盤の一層の安定強化に努めてまいります。

**推進項目****① 信頼される組織運営体制の強化****(1) 組織内の連携及び情報共有運営体制の強化**

地域から信頼される組織・運営基盤強化のために、会議の体系整備やタイムリーな情報の共有を促進します。

**(2) 理事会・評議員会の役割の明確化と機能強化**

社協事業推進の執行機関・議決機関である理事会・評議員会と事務局との連携を密にするとともに、理事・評議員を対象とした役職員研修会等参加への充実を図ります。また外部講師を招いての研修を企画し、一層の理事会・評議員会の機能強化に努めます。

**(3) 事業評価による効果的、効率的な運営**

効率的な事務処理体制と経営に見合った組織体制の構築に向け、現執行体制の見直しを図るとともに、定期的な事務事業評価や事務事業の見直しなど行い、業務の簡素化や能率化を進めていきます。

**(4) 資格取得促進による専門職の確保と養成**

業務の多様性や専門性に円滑に対応できるよう、職員への各種資格取得を勧めるとともに、各種講習会や資格取得に向けた職場環境を整え、質の高い専門職の確保に努めます。

**(5) 個人情報の適正管理の強化**

福祉サービス利用者や地域福祉活動に関わる地域住民の個人情報について適正な管理・運用体制の強化に努めます。

**(6) 法令遵守・リスクマネジメントの推進**

社会的責任と公的使命を認識し、社会規範に沿った責任体制の確立に努めます。また、日常の業務を点検し、何が課題なのかを職場間で協議するとともに、業務上アクシデントの内容を職員会議などで話し合い、あらゆる経営的リスクを最小限にし、健全な業務運営に取り組みます。

**(7) 虐待防止対応規程整備・マニュアル作成**

福祉サービス事業に係る、虐待を防止するための体制を整備することにより、利用者の安全と権利を擁護するとともに、利用者が福祉サービスを適切に利用できるような支援することを目的に規程を整備し、社協職員による虐待防止委員会を設置するとともに、対応マニュアルを作成します。

**(8) 苦情解決の推進**

社協が提供する福祉サービスに対し、苦情の申し出があった場合、これを密室化せず、社協職員による苦情解決検討委員会において、客観的見地に立ち、迅速かつ適切な解決に努めます。なお、苦情解決検討委員会において、解決に至らなかった事案については、第三者委員会での検討解決にあたり、利用者の満足度を高めるとともに、十分なサービスを活用します。

**② 財源の確保と効率的運用**

**(1) 会員会費制度の理解と加入促進**

会員拡大のため社協事業の周知と理解に努め社協だよりやホームページなどによる新規加入促進を図ります。

**(2) 社会福祉基金の安定確保と円滑運用**

会費、寄付金、共同募金助成金の自主財源確保や民間団体の補助・助成事業を有効に活用するとともに、社会福祉基金の効率的な運用を図ります。

**(3) 公費助成と寄付金・共同募金等の安定確保**

地域福祉を支える民間団体として公共性の高い事業を展開しており、市からの補助金・委託料や寄付金・共同募金助成金の安定確保に努めます。





<p>③ 共同募金委員会・日本赤十字社への協力</p>
<p>(1) 共同募金委員会との連携による募金制度理解促進</p> <p>共同募金は社会福祉協議会の地域福祉事業を支える貴重な財源として活用されており、今後も事務局を担う立場として、北海道共同募金会と連携しながら共同募金運動の推進に取り組めます。</p>
<p>(2) 日本赤十字社社員加入促進</p> <p>日本赤十字社は、災害時の医療救護活動、平時の救護訓練、救護装備の充実、救援物資の備蓄、緊急時の手当てなどを学ぶ各種講習会の開催など様々な事業を展開していくための活動資金募集について、広報誌やホームページなどにより加入促進を図っていきます。</p>
<p>④ 第3期地域福祉実践計画の進行管理</p>
<p>(1) 第3期地域福祉実践計画懇談会の開催</p> <p>第3期地域福祉実践計画を計画に沿って円滑に推進していくために、地域福祉実践計画懇談会を設けて、各年度の上期、下期で事業の実施状況等を評価し目標に対する進捗情報を把握・検証し適切な進行管理を行うとともに、福祉を取り巻く社会状況の変化に対し計画の変更を行います。</p>
<p>(2) 第3期地域福祉実践計画ダイジェスト版（概要版）の作成</p> <p>市民が解りやすいようにダイジェスト版を作成するとともに、社協だよりやホームページへも掲載し、広く周知し社協活動の理解に努めます。</p>
<p>⑤ 施設の管理運営事業の充実</p>
<p>(1) サポートセンターしべつ管理運営の充実</p> <p>社協の地域福祉・在宅福祉活動の拠点として、またボランティア団体・福祉団体等の会議や交流等に対応するとともに、士別市との管理委託契約に基づき、適切な施設の保守と管理運営の充実に努めます。</p>





## ⑥ 行政や関係機関・団体との連携

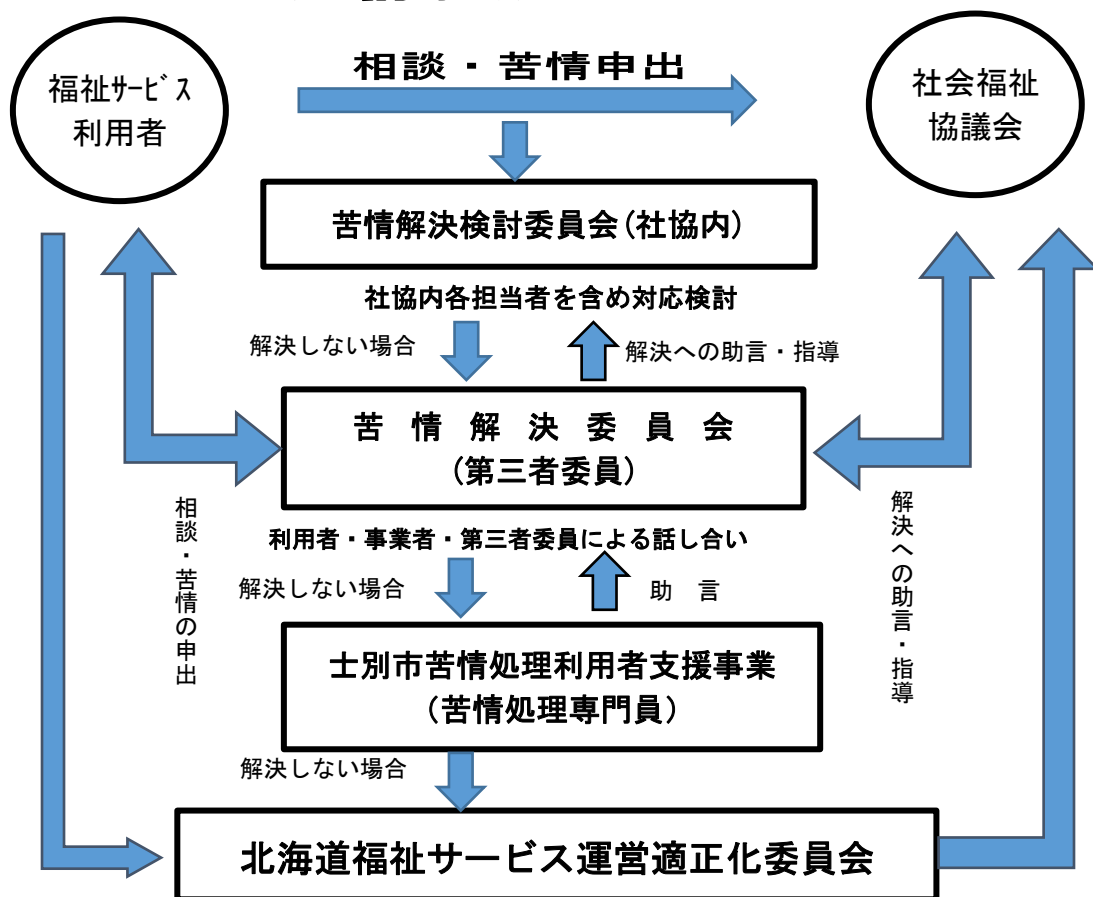
### (1) 行政とのパートナーシップの推進

士別市が策定する地域福祉計画と本会の第3期地域福祉実践計画が相互に連携を図りながら、地域における様々な生活課題等を把握した際には、相互に情報を共有し共に対処策を協議できるようなパートナーシップを築き、地域福祉の推進に取り組みます。

### (2) 福祉関係団体・福祉サービス事業所との連携強化

地域における多様な生活課題や福祉ニーズに答えるために、福祉関係団体や福祉サービス事業所と積極的に意見交換や情報の共有化を図り連携の強化に努めます。

## 苦情解決のしくみ



## 推進項目／年次計画

事業項目 事業内容	方向性	年次計画				
		R2	R3	R4	R5	R6
① 信頼される組織運営体制の強化						
(1) 組織内の連携及び情報共有運営体制の強化	継続	○	○	○	○	○
(2) 理事会・評議員会の役割の明確化と機能強化	継続	○	○	○	○	○
(3) 事業評価による効果的、効率的な運営	継続	○	○	○	○	○
(4) 資格取得促進による専門職の確保と養成	継続	○	○	○	○	○
(5) 個人情報の適正管理の強化	継続	○	○	○	○	○
(6) 法令遵守・リスクマネジメントの推進	継続	○	○	○	○	○
(7) 虐待防止対応規程整備・マニュアル作成	新規	○	○	○	○	○
(8) 苦情解決の推進	継続	○	○	○	○	○
② 財源の確保と効率的運用						
(1) 会員会費制度の理解と加入促進	拡充	○	○	○	○	○
(2) 社会福祉基金の安定確保と円滑運用	継続	○	○	○	○	○
(3) 公費助成と寄付金・共同募金等の安定確保	継続	○	○	○	○	○
③ 共同募金委員会・日本赤十字社への協力						
(1) 共同募金委員会との連携による募金制度理解促進	拡充	○	○	○	○	○
(2) 日本赤十字社社員加入促進	拡充	○	○	○	○	○
④ 第3期地域福祉実践計画の進行管理						
(1) 第3期地域福祉実践計画懇談会の開催	新規	○	○	○	○	○
(2) 第3期地域福祉実践計画ダイジェスト版(概要版)の作成	新規	○				
⑤ 施設の管理運営事業の充実						
(1) サポートセンターしべつ管理運営の充実	継続	○	○	○	○	○
⑥ 行政や関係機関・団体との連携						
(1) 行政とのパートナーシップの推進	継続	○	○	○	○	○
(2) 福祉関係団体・福祉サービス事業所との連携強化	継続	○	○	○	○	○



## 《 資 料 編 》

### 第 3 期士別市地域福祉実践計画アンケート調査結果について

この実践計画を策定するにあたり、できるだけ多くの市民の声を聴きながら地域における生活課題や福祉課題を把握するためアンケート調査を実施しました。

#### (1) 地域福祉に関する市民意識調査

市民の地域福祉に関する意識を調査し、計画策定の基礎資料とするため、16歳以上市民、1,000名を対象としたアンケート調査を実施しました。

##### ①調査の内容

項 目	内 容
調 査 対 象	16歳以上の士別市民
調 査 方 法	郵送により配布・回収により実施（無記名回答）
調 査 期 間	令和1年11月1日～令和1年12月31日

##### ②回収の状況

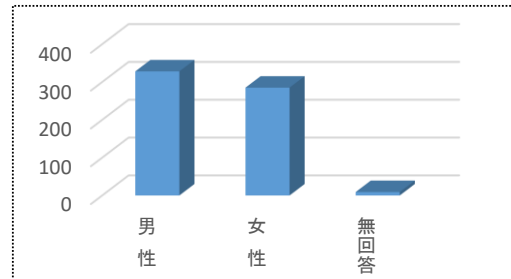
配 布 数	回 収 数	回 収 率
1,000	622	62.2%

## 年齢、世帯構成などの基礎的なこと

問1 あなたの性別は、どちらですか

- ・「男性」の割合が52.7%、「女性」が45.8%と男性のほうがやや多くなっています。

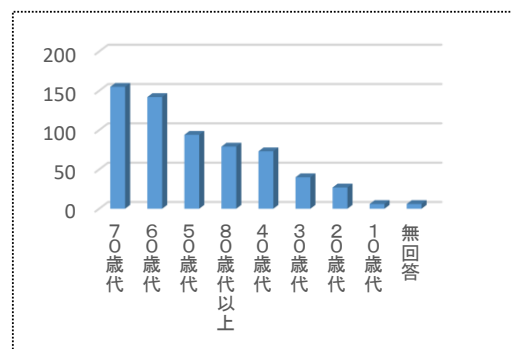
選択項目	人数	構成比
男性	328	52.7%
女性	285	45.8%
無回答	9	1.4%
合計	622	100.0%



問2 あなたの年齢は何歳ですか

- ・「70歳代」の割合が24.9%と最も高く、次いで「60歳代」が22.8%、「50歳代」が15.1%、「80歳代以上」が12.7%、「40歳代」が11.7%となっています。

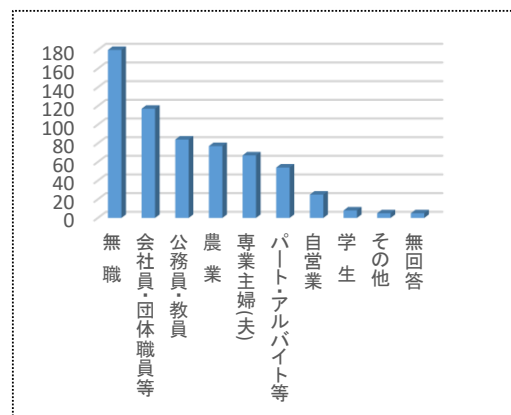
選択項目	人数	構成比
70歳代	155	24.9%
60歳代	142	22.8%
50歳代	94	15.1%
80歳代以上	79	12.7%
40歳代	73	11.7%
30歳代	40	6.4%
20歳代	27	4.3%
10歳代	6	1.0%
無回答	6	1.0%
合計	622	100.0%



問3 あなたのお仕事は、どれですか

- ・「無職」の割合が28.9%と最も高く、次いで「会社員・団体職員等」が18.8%、「公務員・教員」が13.5%、「農業」が12.4%となっています。

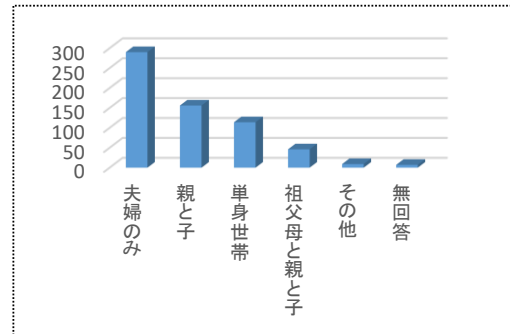
選択項目	人数	構成比
無職	180	28.9%
会社員・団体職員等	117	18.8%
公務員・教員	84	13.5%
農業	77	12.4%
専業主婦(夫)	67	10.8%
パート・アルバイト等	54	8.7%
自営業	25	4.0%
学生	8	1.3%
その他	5	0.8%
無回答	5	0.8%
合計	622	100.0%



問4 あなたの同居している家族構成は、どれですか

- ・「夫婦のみ」の割合が46.6%と最も高く、次いで「親と子」が25.1%、「単身世帯」が18.3%となっています。

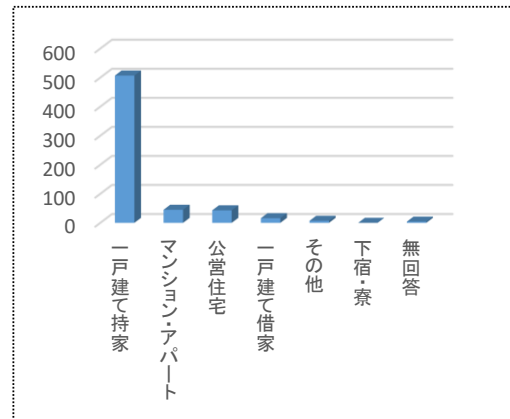
選択項目	人数	構成比
夫婦のみ	290	46.6%
親と子	156	25.1%
単身世帯	114	18.3%
祖父母と親と子	46	7.4%
その他	9	1.4%
無回答	7	1.1%
合計	622	100.0%



問5 あなたのお住まいは、どれですか

- ・「一戸建て持家」の割合が81.5%と最も高く、次いで「マンション・アパート」が7.2%となっています。

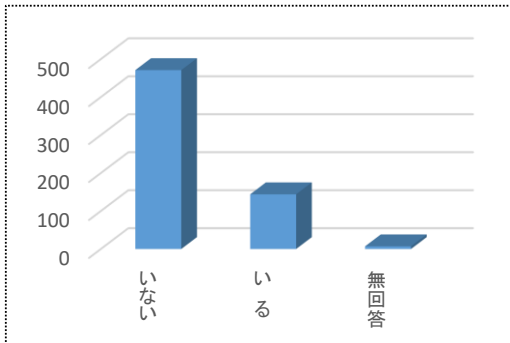
選択項目	人数	構成比
一戸建て持家	507	81.5%
マンション・アパート	45	7.2%
公営住宅	43	6.9%
一戸建て借家	16	2.6%
その他	7	1.1%
下宿・寮	0	0.0%
無回答	4	0.6%
合計	622	100.0%



問6 家族の中で、高齢や障がいなどのために介護が必要な方はいますか

- ・「いない」の割合が75.7%、「いる」が23.2%と「いない」が多くなっています。

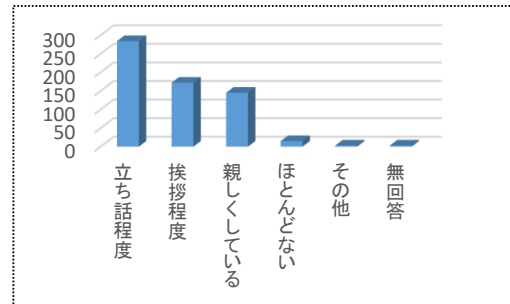
選択項目	人数	構成比
いない	471	75.7%
いる	144	23.2%
無回答	7	1.1%
合計	622	100.0%



問7 あなたは近所の人とどの程度お付き合いをしていますか

- ・「立ち話程度」の割合が45.7%と最も高く、次いで「挨拶程度」が27.7%、「親しくしている」が23.3%となっています。

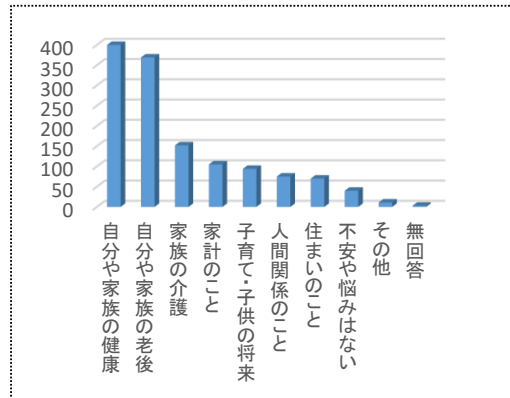
選択項目	人数	構成比
立ち話程度	284	45.7%
挨拶程度	172	27.7%
親しくしている	145	23.3%
ほとんどない	15	2.4%
その他	3	0.5%
無回答	3	0.5%
合計	622	100.0%



問8 日常生活で、どのような不安や悩みを感じていますか(3つまで)

- ・「自分や家族の健康」の割合が30.3%と最も高く、次いで「自分や家族の老後」が28.0%、「家族の介護」が11.5%、「家計のこと」が8.0%となっています。

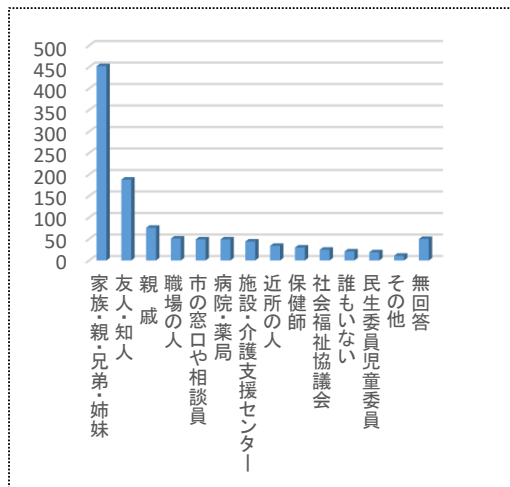
選択項目	人数	構成比
自分や家族の健康	400	30.3%
自分や家族の老後	369	28.0%
家族の介護	152	11.5%
家計のこと	105	8.0%
子育て・子供の将来	94	7.1%
人間関係のこと	75	5.7%
住まいのこと	70	5.3%
不安や悩みはない	40	3.0%
その他	11	0.8%
無回答	3	0.2%
合計	1,319	100.0%



問8-2 不安や悩みはどなたに相談したいと思いますか(3つまで)

- ・「家族・親・兄弟・姉妹」の割合が41.1%と最も高く、次いで「友人・知人」が17.1%、「親戚」が6.9%となっています。

選択項目	人数	構成比
家族・親・兄弟・姉妹	452	41.1%
友人・知人	188	17.1%
親戚	76	6.9%
職場の人	51	4.6%
市の窓口や相談員	49	4.5%
病院・薬局	49	4.5%
施設・介護支援センター	44	4.0%
近所の人	34	3.1%
保健師	30	2.7%
社会福祉協議会	25	2.3%
誰もいない	21	1.9%
民生委員児童委員	19	1.7%
その他	11	1.0%
無回答	50	4.5%
合計	1,099	100.0%

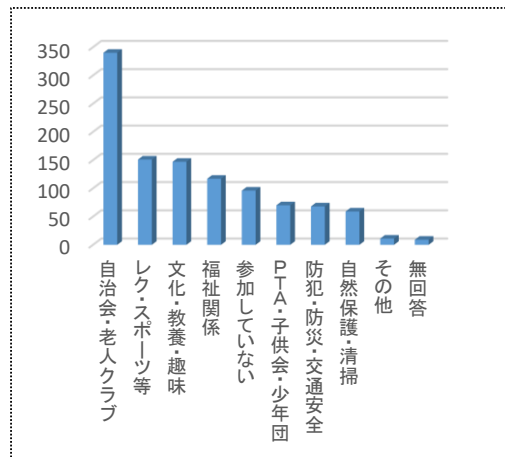


## 地域福祉活動・ボランティア活動

問9 地域のどのような活動に参加していますか（複数）

- ・「自治会・老人クラブ」の割合が31.8%と最も高く、次いで「レク・スポーツ等」が14.1%、「文化・教養・趣味」が13.8%、「福祉関係」が11.0%となっています。

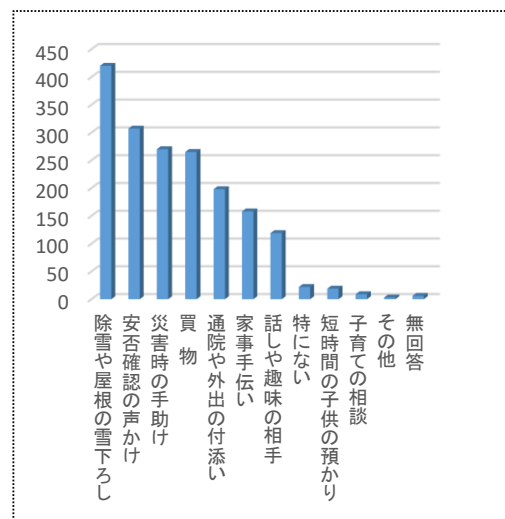
選択項目	人数	構成比
自治会・老人クラブ	340	31.8%
レク・スポーツ等	151	14.1%
文化・教養・趣味	147	13.8%
福祉関係	117	11.0%
参加していない	96	9.0%
P.T.A・子供会・少年団	70	6.6%
防犯・防災・交通安全	68	6.4%
自然保護・清掃	59	5.5%
その他	11	1.0%
無回答	9	0.8%
合計	1,068	100.0%



問10 高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域にどのようなことを望みますか（複数）

- ・「除雪や屋根の雪下ろし」の割合が23.4%と最も高く、次いで「安否確認の声かけ」が17.1%、「災害時の手助け」が15.0%、「買物」が14.8%となっています。

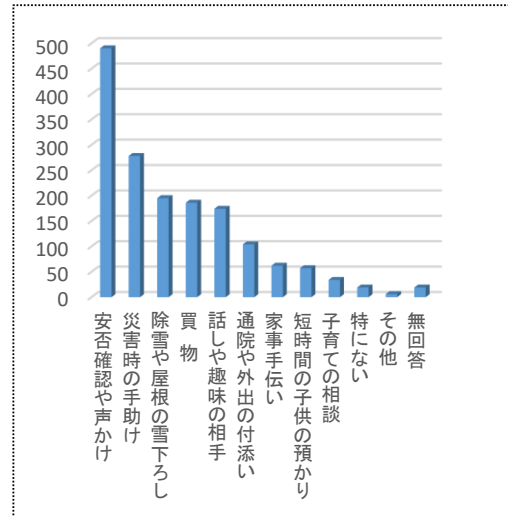
選択項目	人数	構成比
除雪や屋根の雪下ろし	420	23.4%
安否確認の声かけ	307	17.1%
災害時の手助け	270	15.0%
買物	265	14.8%
通院や外出の付添い	198	11.0%
家事手伝い	158	8.8%
話しや趣味の相手	119	6.6%
特になし	22	1.2%
短時間の子供の預かり	19	1.1%
子育ての相談	9	0.5%
その他	3	0.2%
無回答	6	0.3%
合計	1,796	100.0%



問11 高齢や障がい、子育て等で困っている世帯があった場合、支援できることはどのようなことですか（複数）

- ・「安否確認や声かけ」の割合が30.2%と最も高く、次いで「災害時の手助け」が17.1%、「除雪や屋根の雪下ろし」が12.0%、「買物」が11.5%となっています。

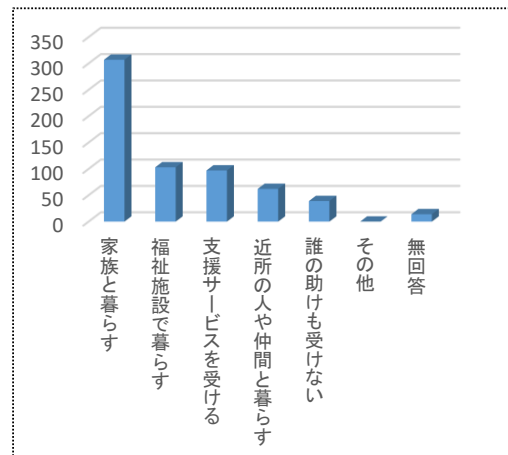
選択項目	人数	構成比
安否確認や声かけ	490	30.2%
災害時の手助け	278	17.1%
除雪や屋根の雪下ろし	195	12.0%
買物	186	11.5%
話しや趣味の相手	174	10.7%
通院や外出の付添い	104	6.4%
家事手伝い	62	3.8%
短時間の子供の預かり	57	3.5%
子育ての相談	34	2.1%
特にない	19	1.2%
その他	6	0.4%
無回答	19	1.2%
合計	1,624	100.0%



問12 自分の老後をどのように暮らしたいと考えていますか

- ・「家族と暮らす」の割合が49.4%と最も高く、次いで「福祉施設で暮らす」が16.6%、「支援サービスを受ける」15.6%、「近所の人や仲間と暮らす」10.0%となっています。

選択項目	人数	構成比
家族と暮らす	307	49.4%
福祉施設で暮らす	103	16.6%
支援サービスを受ける	97	15.6%
近所の人や仲間と暮らす	62	10.0%
誰の助けも受けない	39	6.3%
その他	0	0.0%
無回答	14	2.3%
合計	622	100.0%

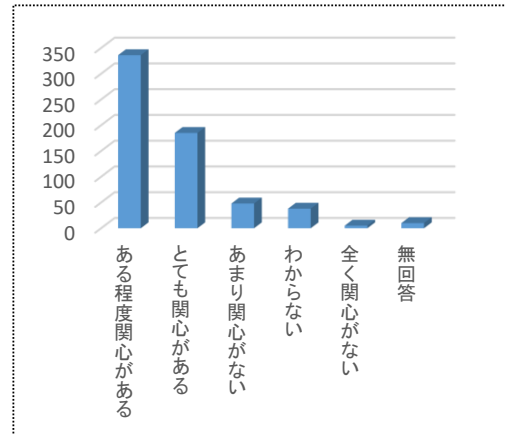




問13 「地域福祉」について関心をお持ちですか

- ・「ある程度関心がある」の割合が54.0%と最も高く、次いで「とても関心がある」が29.7%、「あまり関心がない」が7.7%となっています。

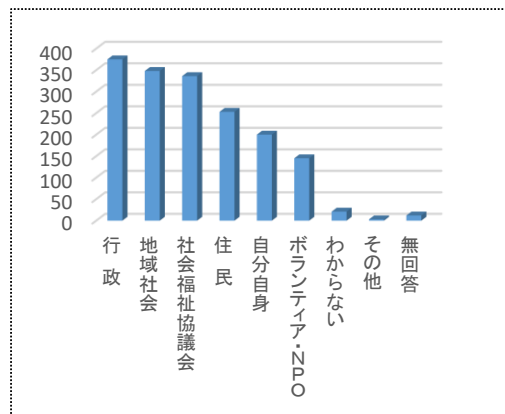
選択項目	人数	構成比
ある程度関心がある	336	54.0%
とても関心がある	185	29.7%
あまり関心がない	48	7.7%
わからない	38	6.1%
全く関心がない	5	0.8%
無回答	10	1.6%
合計	622	100.0%



問14 「地域福祉」を支えていくのは誰（どこ）だと思いますか（複数）

- ・「行政」の割合が22.2%と最も高く、次いで「地域社会」が20.6%、「社会福祉協議会」が19.8%、「住民」が14.9%、「自分自身」が11.8%となっています。

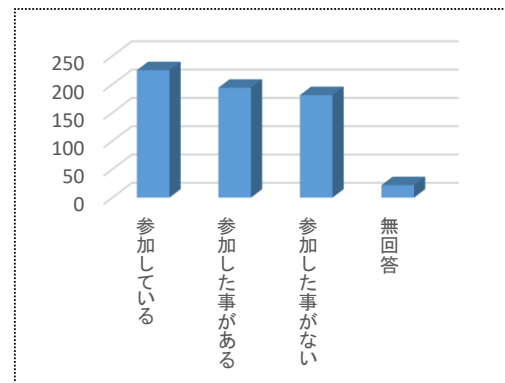
選択項目	人数	構成比
行政	375	22.2%
地域社会	348	20.6%
社会福祉協議会	336	19.8%
住民	253	14.9%
自分自身	200	11.8%
ボランティア・NPO	145	8.6%
わからない	21	1.2%
その他	3	0.2%
無回答	12	0.7%
合計	1,693	100.0%



問15 ボランティア活動に参加したことがありますか

- ・「参加している」の割合が36.2%と最も高く、次いで「参加した事がある」が31.2%、「参加した事がない」が29.1%となっています。

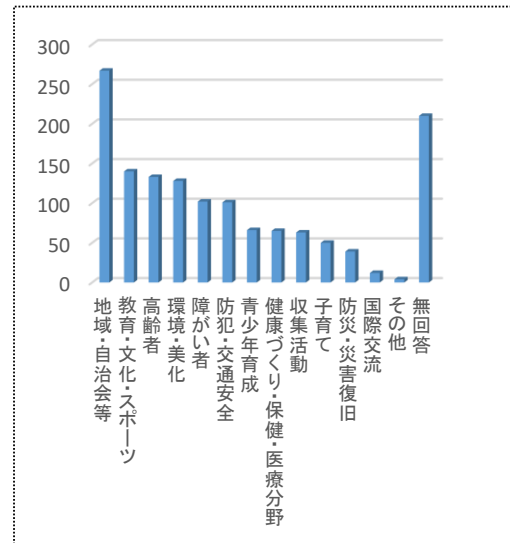
選択項目	人数	構成比
参加している	225	36.2%
参加した事がある	194	31.2%
参加した事がない	181	29.1%
無回答	22	3.5%
合計	622	100.0%



問15-2 参加している(参加したことがある)分野はどのような活動ですか(複数)

- ・「地域・自治会等」の割合が19.3%と最も高く、「教育・文化・スポーツ」が10.1%、「高齢者」が9.6%、「環境・美化」が9.3%、「障がい者」が7.4%となっています。

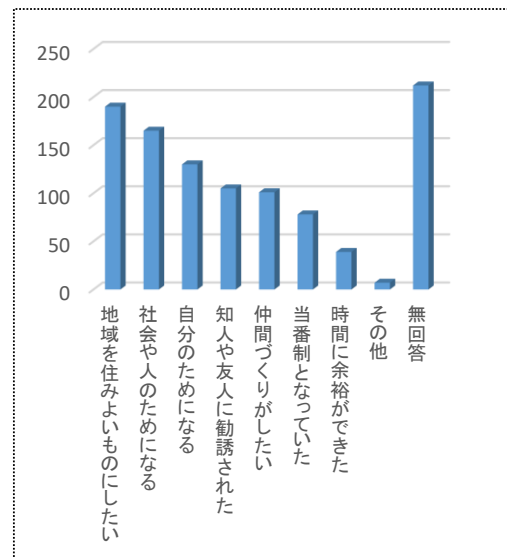
選択項目	人数	構成比
地域・自治会等	267	19.3%
教育・文化・スポーツ	140	10.1%
高齢者	133	9.6%
環境・美化	128	9.3%
障がい者	102	7.4%
防犯・交通安全	101	7.3%
青少年育成	66	4.8%
健康づくり・保健・医療分野	65	4.7%
収集活動	63	4.6%
子育て	50	3.6%
防災・災害復旧	39	2.8%
国際交流	12	0.9%
その他	4	0.3%
無回答	210	15.2%
合計	1,380	100.0%



問15-3 ボランティア活動のきっかけは、どのような理由ですか(複数)

- ・「地域を住みよいものにしたい」の割合が18.5%と最も高く、次いで「社会や人のためになる」が16.1%、「自分のためになる」が12.7%となっています。

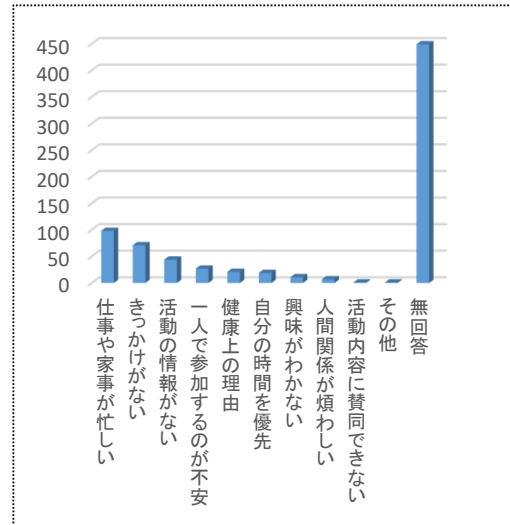
選択項目	人数	構成比
地域を住みよいものにしたい	190	18.5%
社会や人のためになる	165	16.1%
自分のためになる	130	12.7%
知人や友人に勧誘された	105	10.2%
仲間づくりがしたい	101	9.8%
当番制となっていた	78	7.6%
時間に余裕ができた	39	3.8%
その他	7	0.7%
無回答	212	20.6%
合計	1,027	100.0%



問15-4 ボランティアに参加しない理由はどのようなことですか（複数）

- ・「仕事や家事が忙しい」の割合が13.1%と最も高く、次いで「きっかけがない」が9.5%、「活動の情報がない」が5.9%となっています。

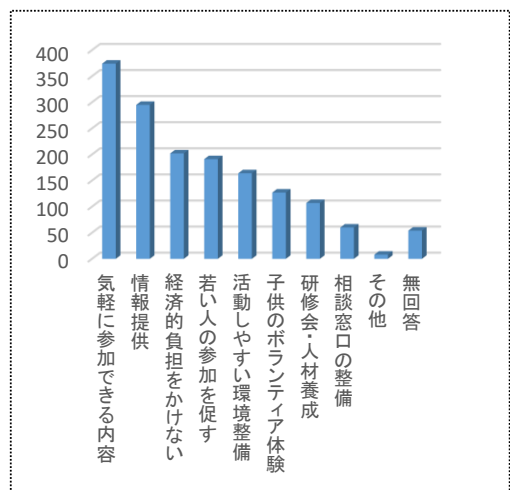
選択項目	人数	構成比
仕事や家事が忙しい	98	13.1%
きっかけがない	71	9.5%
活動の情報がない	44	5.9%
一人で参加するのが不安	27	3.6%
健康上の理由	21	2.8%
自分の時間を優先	19	2.5%
興味がわからない	11	1.5%
人間関係が煩わしい	7	0.9%
活動内容に賛同できない	1	0.1%
その他	1	0.1%
無回答	449	59.9%
合計	749	100.0%



問16 ボランティア活動を盛んにするために、どのようなことが必要だと思いますか（複数）

- ・「気軽に参加できる内容」の割合が23.6%と最も高く、次いで「情報提供」が18.6%、「経済的負担をかけない」が12.8%、「若い人の参加を促す」が12.1%となっています。

選択項目	人数	構成比
気軽に参加できる内容	374	23.6%
情報提供	295	18.6%
経済的負担をかけない	202	12.8%
若い人の参加を促す	191	12.1%
活動しやすい環境整備	164	10.4%
子供のボランティア体験	127	8.0%
研修会・人材養成	107	6.8%
相談窓口の整備	60	3.8%
その他	8	0.5%
無回答	54	3.4%
合計	1,582	100.0%

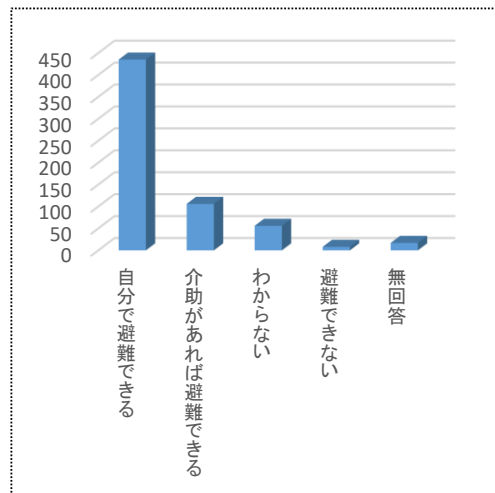


## 災害時の対応について

問17 災害など緊急事態が発生した場合、避難できると思いますか

- ・「自分で避難できる」の割合が69.9%と最も高く、次いで「介助があれば避難できる」が17.0%、「わからない」が9.0%となっています。

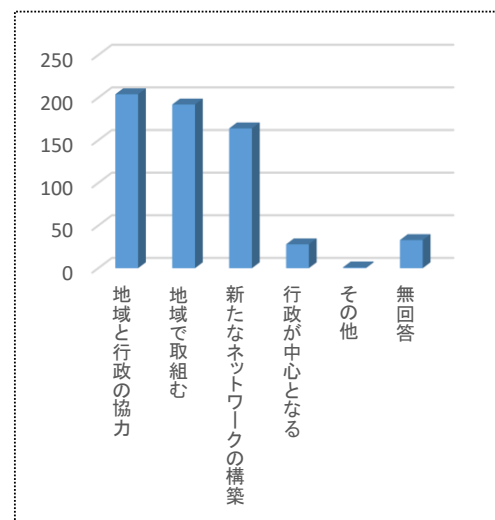
選択項目	人数	構成比
自分で避難できる	435	69.9%
介助があれば避難できる	106	17.0%
わからない	56	9.0%
避難できない	8	1.3%
無回答	17	2.7%
合計	622	100.0%



問18 災害が発生した時、自力で避難できないなど手助けが必要な方に対し、どのような支援が望ましいと思いますか

- ・「地域と行政の協力」の割合が32.8%と最も高く、次いで「地域で取組む」が30.9%、「新たなネットワークの構築」が26.4%となっています。

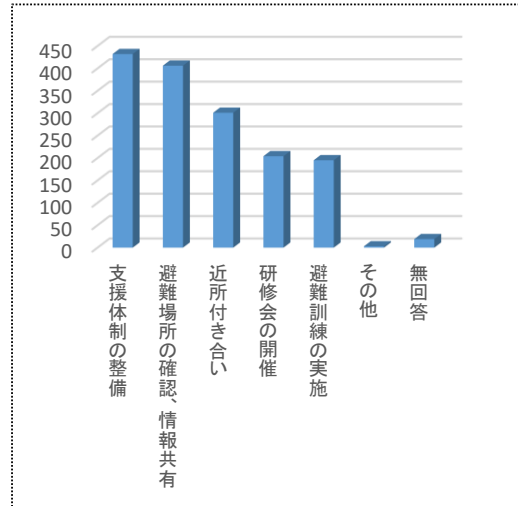
選択項目	人数	構成比
地域と行政の協力	204	32.8%
地域で取組む	192	30.9%
新たなネットワークの構築	164	26.4%
行政が中心となる	28	4.5%
その他	1	0.2%
無回答	33	5.3%
合計	622	100.0%



問19 災害時における地域の助け合いを進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか（3つまで）

- ・「支援体制の整備」の割合が27.7%と最も高く、次いで「避難場所の確認、情報共有」が26.0%、「近所付き合い」が19.3%、「研修会の開催」が13.1%となっています。

選択項目	人数	構成比
支援体制の整備	432	27.7%
避難場所の確認、情報共有	406	26.0%
近所付き合い	301	19.3%
研修会の開催	204	13.1%
避難訓練の実施	195	12.5%
その他	3	0.2%
無回答	19	1.2%
合計	1,560	100.0%

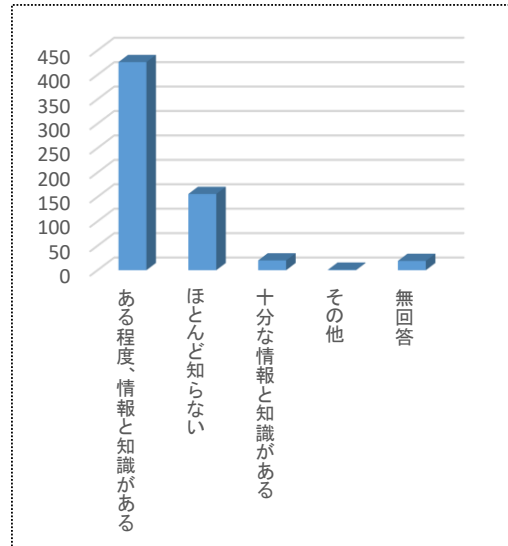


## 士別の福祉について

問20 福祉サービスや福祉施設について、どの程度知っていますか

- ・「ある程度、情報と知識がある」の割合が68.5%と最も高く、次いで「ほとんど知らない」が25.1%、「十分な情報と知識がある」が3.2%となっています。

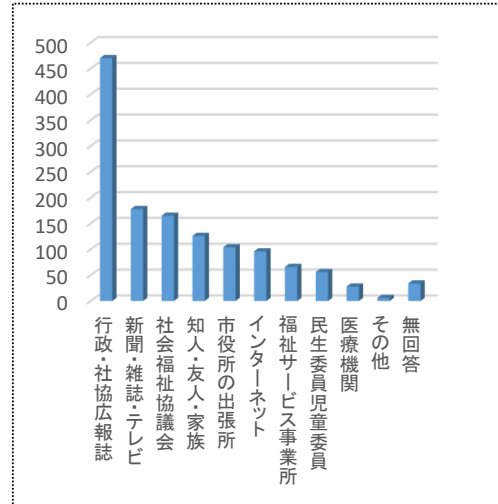
選択項目	人数	構成比
ある程度、情報と知識がある	426	68.5%
ほとんど知らない	156	25.1%
十分な情報と知識がある	20	3.2%
その他	1	0.2%
無回答	19	3.1%
合計	622	100.0%



問21 福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか（複数）

- ・「行政・社協広報誌」の割合が35.4%と最も高く、次いで「新聞・雑誌・テレビ」が13.4%、「社会福祉協議会」が12.4%、「知人・友人・家族」が9.5%となっている。

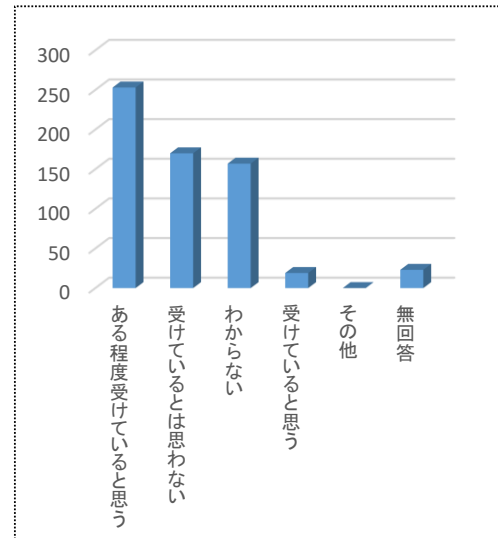
選択項目	人数	構成比
行政・社協広報誌	470	35.4%
新聞・雑誌・テレビ	178	13.4%
社会福祉協議会	165	12.4%
知人・友人・家族	126	9.5%
市役所の出張所	104	7.8%
インターネット	96	7.2%
福祉サービス事業所	66	5.0%
民生委員児童委員	56	4.2%
医療機関	28	2.1%
その他	6	0.5%
無回答	34	2.6%
合計	1,329	100.0%



問22 日常生活における支援を必要としている人が、十分な福祉サービスを受けていると思いますか

- ・「ある程度受けていると思う」の割合が40.7%と最も高く、次いで「受けているとは思わない」が27.3%、「わからない」が25.2%となっています。

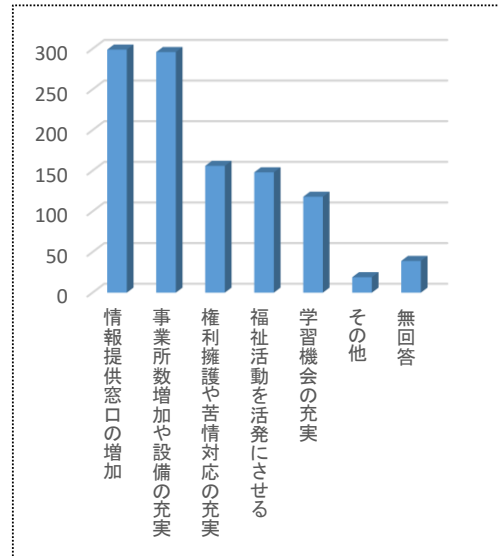
選択項目	人数	構成比
ある程度受けていると思う	253	40.7%
受けているとは思わない	170	27.3%
わからない	157	25.2%
受けていると思う	19	3.1%
その他	0	0.0%
無回答	23	3.7%
合計	622	100.0%



問23 福祉サービスを充実させるために必要と思うものはどれですか（2つまで）

- ・「情報提供窓口の増加」の割合が27.8%と最も高く、次いで「事務所数増加や設備の充実」が27.5%、「権利擁護や苦情対応の充実」が14.5%となっています。

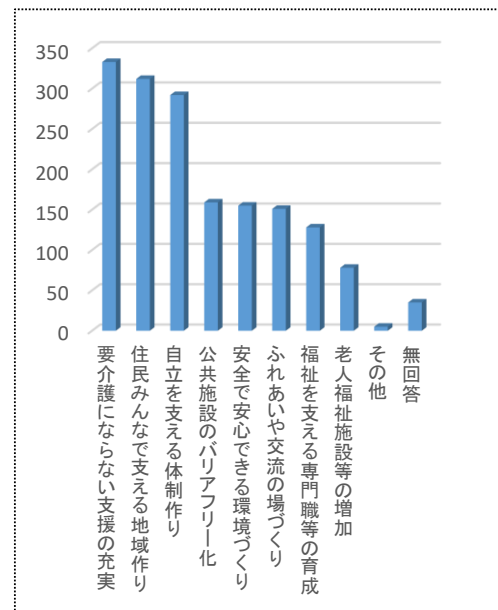
選択項目	人数	構成比
情報提供窓口の増加	299	27.8%
事務所数増加や設備の充実	296	27.5%
権利擁護や苦情対応の充実	156	14.5%
福祉活動を活発にさせる	148	13.8%
学習機会の充実	118	11.0%
その他	19	1.8%
無回答	39	3.6%
合計	1,075	100.0%



問24 高齢者や障がい者(児)の住みよいまちを作るため、今後どのようなことが重要だと思いますか（3つまで）

- ・「要介護にならない支援の充実」の割合が20.2%と最も多く、「住民みんなで支える地域作り」が18.9%、「自立を支える体制作り」が17.7%となっています。

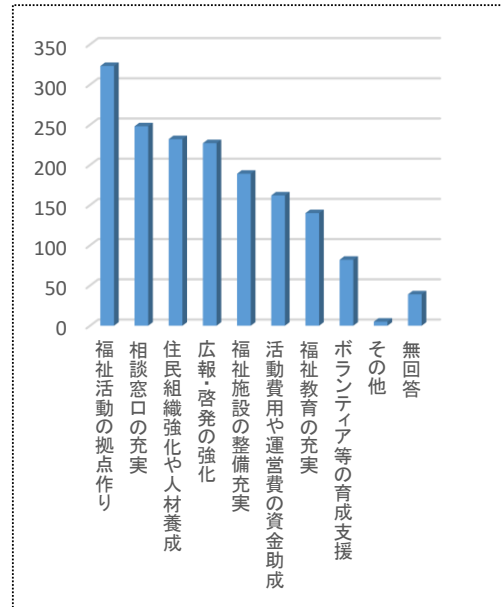
選択項目	人数	構成比
要介護にならない支援の充実	333	20.2%
住民みんなで支える地域作り	312	18.9%
自立を支える体制作り	292	17.7%
公共施設のバリアフリー化	159	9.6%
安全で安心できる環境づくり	155	9.4%
ふれあいや交流の場づくり	151	9.2%
福祉を支える専門職等の育成	128	7.8%
老人福祉施設等の増加	78	4.7%
その他	5	0.3%
無回答	35	2.1%
合計	1,648	100.0%



問25 地域福祉を進めるため、今後どのようなことが重要だと思いますか（3つまで）

- ・「福祉活動の拠点作り」の割合が19.6%で最も高く、次いで「相談窓口の充実」が15.1%、「住民組織強化や人材養成」が14.1%となっています。

選択項目	人数	構成比
福祉活動の拠点作り	323	19.6%
相談窓口の充実	248	15.1%
住民組織強化や人材養成	232	14.1%
広報・啓発の強化	227	13.8%
福祉施設の整備充実	189	11.5%
活動費用や運営費の資金助成	162	9.8%
福祉教育の充実	140	8.5%
ボランティア等の育成支援	82	5.0%
その他	5	0.3%
無回答	39	2.4%
合計	1,647	100.0%

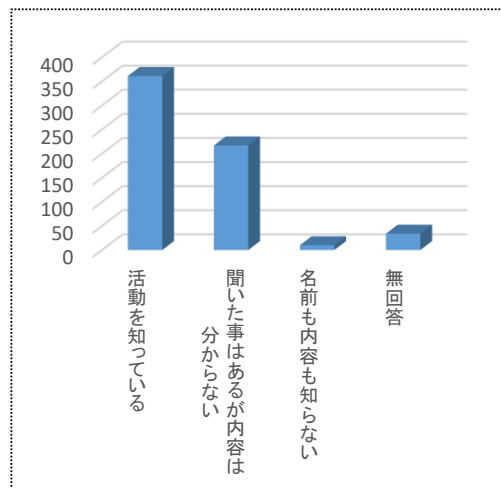


## 社会福祉協議会について

問26 社会福祉協議会について、どの程度知っていますか

- ・「活動を知っている」の割合が58.0%と最も高く、次いで「聞いた事はあるが内容は分からない」が34.9%、「名前も内容も知らない」が1.6%となっています。

選択項目	人数	構成比
活動を知っている	361	58.0%
聞いた事はあるが内容は分からない	217	34.9%
名前も内容も知らない	10	1.6%
無回答	34	5.5%
合計	622	100.0%

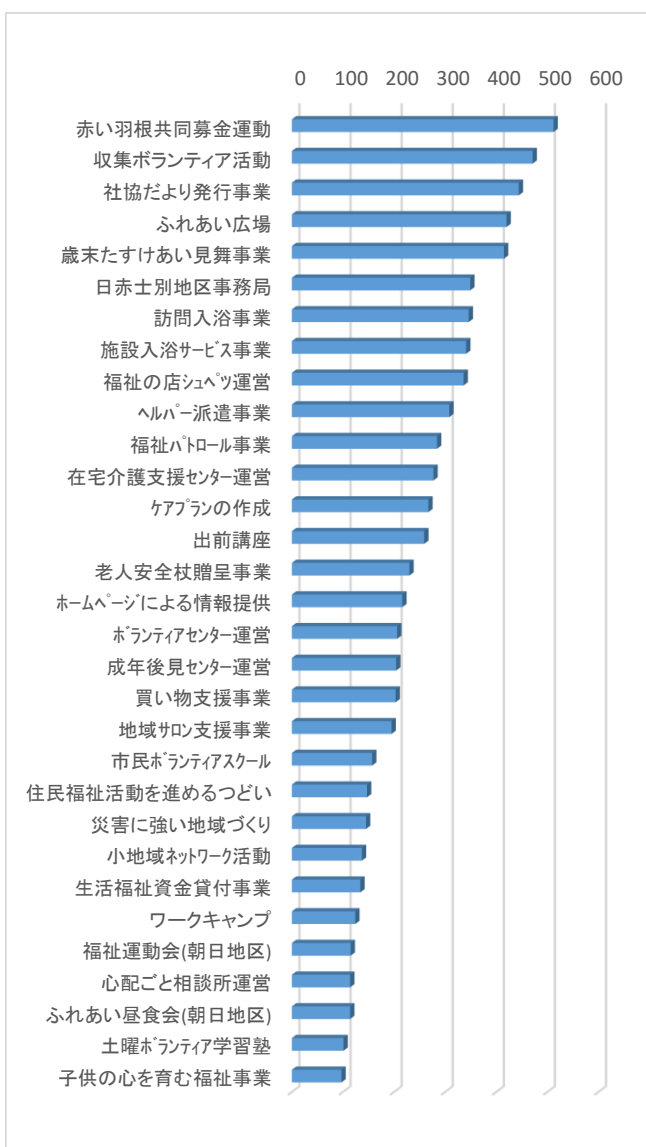




問27 現在、士別市社会福祉協議会が実施している事業やサービスについてどの程度  
知っていますか

最も認知度が高かったのが、「赤い羽根共同募金運動」82.3%、次いで「収集ボランティア活動」75.7%、「社協だより発行事業」71.4%、「ふれあい広場」67.5%、「歳末たすけあい見舞事業」66.7%、「日赤士別市地区事務局」56.1%、「訪問入浴事業」55.6%、「施設入浴サービス事業」54.8%、「福祉の店シュベツ運営」54.0%、「ヘルパー派遣事業」49.5%となっています。

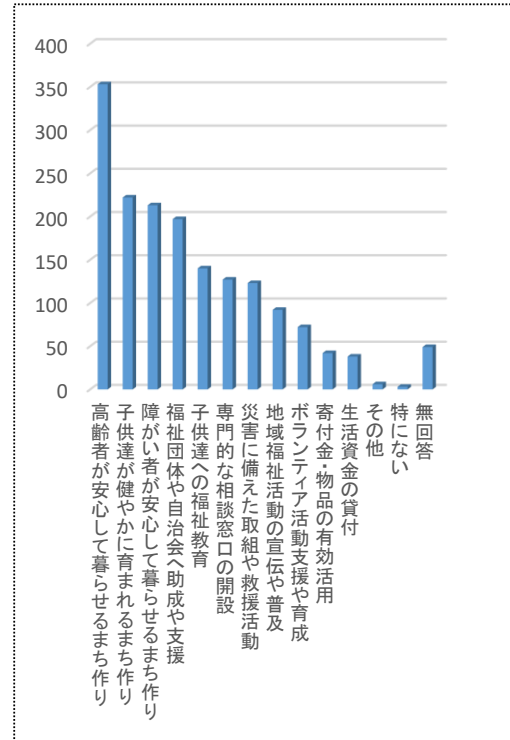
選択項目	人数	構成比
赤い羽根共同募金運動	512	82.3%
収集ボランティア活動	471	75.7%
社協だより発行事業	444	71.4%
ふれあい広場	420	67.5%
歳末たすけあい見舞事業	415	66.7%
日赤士別市地区事務局	349	56.1%
訪問入浴事業	346	55.6%
施設入浴サービス事業	341	54.8%
福祉の店シュベツ運営	336	54.0%
ヘルパー派遣事業	308	49.5%
福祉パトロール事業	284	45.7%
在宅介護支援センター運営	277	44.5%
ケアプランの作成	267	42.9%
出前講座	259	41.6%
老人安全杖贈呈事業	230	37.0%
ホームページによる情報提供	216	34.7%
ボランティアセンター運営	206	33.1%
成年後見センター運営	204	32.8%
買い物支援事業	203	32.6%
地域サロン支援事業	195	31.4%
市民ボランティアスクール	157	25.2%
住民福祉活動を進めるつどい	147	23.6%
災害に強い地域づくり	145	23.3%
小地域ネットワーク活動	137	22.0%
生活福祉資金貸付事業	134	21.5%
ワークキャンプ	124	19.9%
福祉運動会(朝日地区)	115	18.5%
心配ごと相談所運営	114	18.3%
ふれあい昼食会(朝日地区)	114	18.3%
土曜ボランティア学習塾	101	16.2%
子供の心を育む福祉事業	97	15.6%



問28 地域福祉活動の拠点である社会福祉協議会に望むものはどのようなことですか(3つまで)

- ・「高齢者が安心して暮らせるまち作り」の割合が21.0%と最も高く、次いで「子供達が健やかに育まれるまち作り」が13.2%、「障がい者が安心して暮らせるまち作り」が12.7%、「福祉団体や自治会へ助成や支援」が11.7%、「子供達への福祉教育」が8.3%となっています。

選択項目	人数	構成比
高齢者が安心して暮らせるまち作り	353	21.0%
子供達が健やかに育まれるまち作り	222	13.2%
障がい者が安心して暮らせるまち作り	213	12.7%
福祉団体や自治会へ助成や支援	197	11.7%
子供達への福祉教育	140	8.3%
専門的な相談窓口の開設	127	7.6%
災害に備えた取組や救援活動	123	7.3%
地域福祉活動の宣伝や普及	92	5.5%
ボランティア活動支援や育成	72	4.3%
寄付金・物品の有効活用	42	2.5%
生活資金の貸付	38	2.3%
その他	6	0.4%
特になし	3	0.2%
無回答	49	2.9%
合計	1,677	100.0%



## 「士別市地域福祉実践計画アンケート」記述集計表

問29 今後だれもが安心して暮らせるまちづくりを進めていくため、福祉サービスのあり方や地域福祉の進め方などについて日頃考えていることがあれば是非ご記入下さい。

1	障がいの有無や年齢、健康状態に関わらず孤独は良くない。助ける、助けられるの関係とは別に人とのつながりをもてることがその人の人生を豊かにすると思う。
2	高齢者や障がい者(児)が安心して暮らせる町はみんなが安心して暮らせるまちである。地域住民が積極的に協力して、介護・福祉・医療の充実を支えて、この町で生活できて良かったと思う町づくりを1人1人が取り組み、目標とすることが大切だと思う。
3	士別はいろいろな施設があり、充実していると思いますが、施設間(高齢も障がいも)の交流はないと思います。それぞれが顔の見える関係を築けたら安心につながると思います。また、どの施設も職員不足だと思います。施設があっても人がいなくてはよい支援にはならないと思う。
4	年金暮らしの両親を引き取った際、受験生がいたので施設を探したが低額のところは順番待ちで困ったことがあります。
5	生きがいもてることの大切さを感じる。また、健康であり自分で出来ることが多いので、いかに元気でいられるようにするかが必要と考えている、生きるための最低限度の経済力を若いうちからしっかり考えておく必要がある。
6	市民の福祉サービスのニーズを的確に把握できる組織作り。
7	地域のことを一番知っているであろう民生委員が各家庭の状況を把握し問題があれば、市と相談して取り組むことが大事だと思う。その際、状況を他人に知られたくない人もいると思うので、プライバシー保護については他言しないことも大事だと思う。若者や子どもが安心して暮らすことが誰もが安心して暮らすことになると思う。
8	現場でサービスを行う人(担当者、実務者)が今後ますます少なくなって(いなくなる)、サービスが提供できなくなると思う。事務所で管理者が(机でパソコンを見ているような人が)どんどん増えて現場の人がいなくなる。
9	地域福祉と行政の橋渡し・困り事の相談窓口。
10	介護施設の介護者不足で士別の施設の多くが閉鎖されていますので、介護者が増えることを期待します。
11	地域の住民と仲良く生活し、ボランティアと言えどもプライドを捨てて誰にでも優しく接する事ができる人柄になること。自分のことばかり考えている人がなんと多いこと。悲しくなる時があります。素晴らしい人材を育てなければ福祉はできないと思う。
12	高齢者世帯の方が士別を離れる理由のひとつとして冬の暮らしがあります。雪の始末が出来なくなって子どもの住む場所へ引越すケースが多いと思います。長年暮らした場所でいつまでも暮らせるようになれば本当の意味で住みやすい町になるのではないのでしょうか。
13	老後、高齢者や障がい者が一番心配で大変なのは、冬期間の雪の問題。高齢者が士別を離れる原因になっている。災害に備え一番大切なのは、身近な住民同士の助け合いの体制作り。
14	自分の家族が少し離れた場所に住んでいるので、何かあったらと毎日不安でたまりません。ですから、士別市とは関係ないですが私の地元の社会福祉協議会が充実してくれると日々安心することができます。
15	ひとりで住んでいても交流できる場所が遠い、もしくはない。どこでどんな事をやっているか、もっと詳しく周知してほしい。市で活用できるマップの全戸配布をしてほしい。
16	健康寿命を推進する「広告、広報」とそこに携わる人たちを連携して地域に声かけをしていくことができると「健康士別」に近づくとと思う。行政と連携することも大切と思う。
17	高齢者が希望すれば、すぐ入居できる高齢者サービス付きの施設。
18	市民・行政・福祉サービスに関わっている関係者において、すべてにオープンであってほしいし連携が必要だと思う。

19	わかりやすい取組を願います。（見える化）
20	プライバシー、個人情報等で地域が見えにくくなっています。情報を自治会、民生委員に知らせていただくことが重要だと思います。難しいとは思いますが・・・。
21	福祉サービスという今自分には、さほど関係がないと感じる方は（自分も含めて）多いように思います。でも日頃から関心を持ち、情報提供が行き渡るような社会であること、自分にも決して「無関係」ではない、という意識が大切だと思います。「困ったときはお互い様」「自分もいつか利用させてもらうようになる」そんな気持ちで規模の大小に関わらず気軽に参加できることが増えるといいなと思います。
22	自治会などの地域の力が必要と考えます。各地域が様々な組織と連携した中で色々な取組を進めていくことができればと考えます。
23	子育てで日本一とか健康長寿日本一を標榜しているが具体的にどういう方向を目指しているのか分からない。街づくりスローガンという意味での精神論としては理解できるが実効性に疑義有り。市内には産科医がなく、安心して子どもを産み育てる環境にないのに日本一の子育てとは情けない。行政は産科の開設、開院に真剣に取り組んでもらいたい。そして小児科医の充実も望みたい。今や市内での出生はゼロ。死亡は山ほど。土別市はパソコン変換ミスの「死別市」のマチになりかねない。衰退の一途を辿るマチを憂う。
24	特定の誰がというわけではなく、地域住民全体で取り組んでいかななくてはならない事だと思います。一市民として意識して行動に移して行かなければと思います。
25	お年寄りのバス代補助の年齢引き下げに伴う1回100円の制度は、実際に利用する方は75歳以上の方が多く地域のお年寄り1度の利用が400円の出費となり不満が多い。敬老会に対する1人あたりの助成金が2,200円から減額方向への説明に対しては、対象年齢を77歳まで引き上げても助成金額を維持すべきだと思う。
26	トヨタ自動車と連携して自動運転の公共交通の実現。
27	高齢化社会の到来によって、地域(若い人)が高齢者を支えていくには限界があります。高齢者は支えてもらって当たり前という意識があると感じているので(個人的にですが)、地域で(高齢者同士も)支え合う意識の啓発をしてほしい。
28	人口減少(高齢化)が進む中、人と人の力を出し合い少しずつの助け合いで元気に暮らすためには、町づくりについて皆で話し合い、自治・福祉のあり方を考えなければならないと思う。
29	サービスを知っている人だけが得をするのではなく、広く平等に誰もが利用できるような周知方法が必要だと思う。利用対象から外れた人でも支援が必要な場合があるので相談できる環境の充実が必要。
30	高齢化が進み農村部は買い物・通院等、大変大きな問題があり土別市民、皆平等な対応支援を行政に望む所です。皆、都会に若者が流失するのをどう防ぐか、市・議会がもっと知恵をしぼってほしいです。
31	次世代を担う子ども達へのケアや普及を重視した方がいいと思う。土別市は障がい者や高齢者施設に力を入れすぎている。未来を見据えていない。
32	高齢者、障がい者といった弱い立場の人達を支えるにしても、人材がないことには始まらないと思います。まずは、働き手、次世代を育てる人達が住みたいと思うまちづくり(子育てしやすい環境づくり)を進めた方がいいと思う。
33	政府や世の中が自助優先であり、共助・公助と続く価値が流れているためか、個人主義が確立されていると思う。そして、個人の思考・行動が尊重される時代に他人がどれだけ個人の自我に入り、共有する事ができるかが問題だ。また、生き方や死に方もいろいろとある中、共に生きようとか共に行動しようという活動が根付くには長い時間が必要で、現代人にその様な時間を共有しようと思わない。

34	大変、ご苦労様に思っています。自分自身が、声を掛け合っ分らないことは役所なりにお聞きし、助け合いながら暮らす努力が大事だと思っています。
35	第一に家族の問題（家族関係を良くし老後の話し合い）、あくまでも赤字の市政に頼らず、出来る限り福祉のサービスに頼らない生活を送れるように考える。今は認知症が増加傾向にある、その為に脳トレ(マージャン)に週1回通っている、いいアイデアだと思います。 問28に掲げている問題全てが福祉活動に必要な問題である。しかし、この士別の人口が少なく高齢者が多い中、個人が色々な事に関心を持っていても参加は無理なので自分自身が健康でいる事。士別はスポーツの街として知られ自分にあったスポーツを選び、仲間を作り楽しい日々を送り、福祉に無関係な毎日を送ってほしいです。
36	私達の地域の民生委員の訪問回数は年に1～2回です。以前からその様です。もう少し、住民一人一人に目を向けてほしいと思います。仕事を持っている人には無理かもしれません。
37	各自治会や社協の事業等に参加する人が少ない。高齢者が楽しいと思えるような内容にしたら良いと思うが難しいのでしょうか。
38	平均寿命が延びていることもあり、今後も高齢化は進んでいくと思われます。福祉に関する知識を増やしたり、地域に根付くことも大事ではあるが福祉を支える生産年齢人口を増やすことが市にとっては特に必要なことだと思います。
39	福祉事業を大雑把にひとくくりにするのではなく、細めに地域ごとに説明や話し合いの場を提供してほしい。
40	足腰が弱って家にこもりがちの高齢者が多い。口も頭もしっかりしているのに、他人に迷惑をかけたくないという理由で人の親切を拒む、こうなる前の対策は必要です。バス停までは遠いし、時間が不便、タクシーは高い、バスの運転手は意地悪だ、だから出かけたくない、買い物は生協のトドックで充分。 自分は70代だけれど足腰は丈夫だから積極的に外出しているが、上記のような人は多い。気持ちも後向きになりがち、特に男性はどうしようもない、こういう人たちを把握しているのでしょうか。求められる前に、求めを聞いて対策を考えていただきたい。
41	市の福祉関係者の育成。
42	後見人制度の充実により、高齢者や障がい者（共に独居）等が安心して暮らせる体制づくりを期待します。
43	移動支援の充実・生活保護、年金を含め所得、収入の向上。
44	日常の暮らしが災害で非日常になったとき（真冬に停電になったら）、どのような福祉サービスが受けられるのか、対策を立てているのか。高齢者の割合は高くなるばかり、誰かに頼るより共に支え合うのが地域福祉の未来の形かと思う。今までにない形を作るのは個人には難しい。専門の方々の知恵とリーダーシップに期待します。
45	「誰もが安心して暮らせるまちづくり」の基本はそのまちで生活する一人一人の社会性の育成。つまりは「人づくり」。その役割を担うのが社会教育であるので社会福祉と社会教育は一体的に行われると効果的であると考え。どうすれば住民の主体性が育まれるのかを共に考える必要性がある。
46	高齢者や障がい者のため、ヘルパーやケアマネージャーを増やせたり、重度の人のためには市内にもっと施設があればいいと思う。
47	自分の住んでいる町は、色々な面で恵まれていて協力体制が整っていて感謝しています。
48	士別市いきいき健康センターが出来て、様々な取組がなされ、参加する人は元気ですが、男性の参加が少ない。他市町村と比べ士別の老人は幸せだと思う。もっともっと利用したら元気になれると思う。
49	自治会活動を活発にしなければいけない。特に65自治会に733班の班毎の結束が良くなければ、何事も前に進まない。班の親睦等を通し仲間づくり信頼関係を”良”に！（近所の付き合いがなくなって来ている）
50	住民への福祉活動の情報提供を出前講座でやってほしい。

51	福祉事業を共有できる体制づくり。
52	市と社協と自治体の一本化した連携。
53	高齢者夫婦は住み慣れた町、我が家で最後の看取りを望んでいます。高度な医療や治療を望んでいません。本当に動けなくなった時は救急車を呼ぶのではなく、往診してくれる赤ヒゲ先生のようなお医者さんがいてくれる事を望みます。
54	このところよく官民が共生し地域で支え合いとの話しは聞きますが、官(地域在住)行政職員が進んで地域に参加される事を望んでおります。商工会議所に加盟の事業所での福祉への参加しやすい努力支援を広めてほしいものです。
55	住んでいる地域に高齢者が多く、挨拶程度の付き合いのため自分から地域のことを知るよう自治会へ参加することが大切だと思いつつも、一緒に参加する同年代が少ないので参加しにくいと思ってしまう、あまり参加できずにいます。
56	地域福祉計画とのリンクを検証する必要があると思います。福祉教育の充実は急務のように感じます。青年層への働きかけはどうでしょうか。
57	人口が少ない町なので施設を増やすことより、小さい町の中で工夫する事を考える必要あり。
58	安心してボランティア活動ができ(補償)、かつ利用しやすい仕組みづくりが必要と思います。
59	市内西地区に住んでいます。災害時の避難場所がいまいちはっきりせず、多分そこまでたどり着く事ができないと思います。
60	朝日町はダムがあり、いつ災害が起こるかわからないので、話し合いが大事だと思う。
61	今までも、いろいろな活動で十分ですが老人ばかりなので通院など手助けがあれば嬉しいです。
62	自助・共助・公助のバランス感覚を持った活動、それぞれが環境によって一律でない事を互いに理解しながら助け合えること。「向こう三軒両隣」のコミュニケーションの発展。
63	福祉サービスの内容がわかりづらい感じます。サービスを受けるための申請手続きが老人になると難しいように思います。「地域福祉」という名前が難しい雰囲気と思います。
64	お役目ご苦労様ですが、誰もが住みやすいまちづくりの為によろしくお願い致します。
65	高齢、過疎化が進む中、住民がどのように支え合い生活していくか、買い物、病院が遠い、物価が上がると年金生活が一段と大変になるなど現状では士別は年々住みづらい町になっていく。今後買い物、病院にいける支援、生活する支援(市民全員対象)、住んでいて良かった魅力あるまちづくりが必要。
66	もう少し高齢者が暮らしやすい様にしてほしい。
67	今以上に高齢者に対して、声かけ・訪問など身近な対応をして気軽に相談できる雰囲気を作ってください。
68	日頃の地域福祉活動ご苦労様です。自治会等役員様、皆様の活動はある程度理解しているつもりですが、個人情報等、難しい部分もあるでしょうがもう少し家庭内に入った助成、支援が必要と考えます。
69	気軽に話ができる場所があれば良いかなと思います。
70	身近な事から取り組んではいかがでしょうか。地域からという事で士別市自治連が主体となり大変だと思うが、それぞれ自治会単位で住民の見守りをして気配りに重点をおいてお互い助け合っていかなければ超高齢化となった現在、行政だけでは(社会福祉協議会も含む)大変だと思う。難しいけど市民一人一人の福祉に対する理解を今一度認識していただくよう、あの手この手で検討してみてもいかがでしょうか。
71	地域福祉や周りに求める前に、お互い自分自身の心掛けも大事だと思います。一人一人が前向きに頑張っていきたいものと思います。
72	弱者の立場に身をおいて活動してください。
73	介護職が少ない中ではありますが、施設の増加が望ましい。
74	ゴミの分別が厳しい、安心して暮らせる町とは感じない。紙が重くて出せない話を聞いた。

75	市内入浴施設、ぶらっと、和が舎がもっとにぎやかに。せつかくの施設なので利用者拡大対策をしていただきたい。市営住宅の空室が多く見られませんか？行政と相談して若い人たちがもっともっと安く入居できる仕組みにしていきたい。
76	冬になると一番困るのが家の前の除雪です。今のところ自分で一日中、休みながらやっていますが、5年前に腰の手術もしているし、腰と肩が痛くなり春には整骨院に通っています。歳を重ねる毎にどれだけ出来るかが一番の悩みです。
77	今後とも、お年寄り、障がい者、子ども達に暖かい福祉の支援をよろしくお願いたします。
78	行政に頼ることなく、各自で出来ることは自主努力すべきと考えます。
79	福祉サービスといえば高齢者と思われる方が多いと思いますが、現役世代としますと、子ども達を巻き込んで学校等と協力しながら交流や福祉について学んだりふれあう機会を作っていたらよいのではないのでしょうか。
80	近年、市内でも引きこもりの人とその予備軍が増えてきている様です。社協か市が専門的な知識のある人を確保して実態調査、相談窓口の開設・訪問活動などを実施してほしい。必要に応じて一定数の市民ボランティア（有償）が参加、協力できる体制ができれば良いと思う。
81	地域の方々の居場所づくりの取組み、地域食堂が市内自治会館で始まったことは結構な事です。参加される方が楽しいひとときを過ごせることは何よりですが、参加できない方々にいかに参加してもらうか、何かを計画し実行することは誰かが汗をかくことになります。汗をかいてくれる人をどう募るかが課題ですね。
82	個人情報大切に扱ってほしいと感じています。関わっていく人、みんなが責任を持っていただきたいと願います。
83	歩道の雑草が生えたままにするところが多いので、街をきれいにすることも福祉の1つだと思います。
84	今後、若者の人口と支援を必要とする高齢者の人口の比があきらかに高齢者の方が多くなるし、支援団体も高齢化し在宅介護者も高齢となる中、最低年金受給者でも安心して生活できる場所・高額のため、施設に入れず孤独死しないですむ場所があるといいです。
85	アンケートの具現化と推進を願います。
86	80歳の兄と2人暮らしですが、兄が脳梗塞になり左半身不随で車を運転するので、これからの事が心配です。何かある前に相談できればと思うけど、なるべくなら福祉には世話になりたくないです。
87	各団体が連携を取り、勉強会や集まりやすい工夫をして今後も活動していただきたい。
88	以前は生きがいデイサービスで送迎してくれて車に乗れない高齢者は大変喜んでいましたが、今は無くなり車に乗れない人や、介護要支援にも認定されない人は全く外出の機会が無くもったいないと思います。私も運転免許証を返納したら外出の機会が無くなってしまいます。生きがいデイサービス（送迎有り）を復活してほしいです。
89	自分が独居になり将来、住みづらくなったら困るので高齢者共同住宅のような施設がもっと増えるといいと思います。市街地ばかりに集中しないように農村部でもカフェ的な集える場所があればいいと思う。
90	土、日など休日の活動は、どうしても家族中心の行動が優先になり、みんなで行う団体の活動に参加する人が本当に最近では少ないように見受けられます。人口減の影響もあるのでしょうか？
91	各種の事業に参加しましたが、市としては高齢者の集い、福祉に関してもサービスが進んでいると思います。只、個人の考えでの活用が大切だと思います。自分は出来る限り利用しています。
92	日頃の活動に感謝します。介護に関する事ですが急に介護度が変化することもあります。人間相手のことなので速やかに対応していただける体制を期待したい。申込み内容で緊急の有無を吟味して対応してほしい（忙しい、人がいない等の理由で間に合わないことのない様に）

## 「士別市地域福祉実践計画アンケート」記述集計表

問30 士別市社会福祉協議会に対するご意見があれば是非ご記入下さい。

1	市民が活動内容や地域住民との関係が理解できていないと思うので、一般市民にも活動内容を広げる工夫をしてほしい。
2	人口が減少し、市の財政も厳しい状況下にあつて、市の福祉行政によく協力され、また社協自体の事業も着実に遂行され感謝しています。今後も更に充実し発展されますことを希望します。
3	年金暮らしの両親を引き取った際、受験生がいたので施設を探したが低額のところは順番待ちで困ったことがあります。その際、相談にのっていただきありがとうございました。
4	社会福祉協議会が行っている事業（ヘルパー事業や赤い羽根）については理解しているつもりです。その上でより地域に密着するような状況になることができるといいと思います。例えば自治会長や民生委員の懇談とか（実施済みですか？）。自治会に社会福祉協議会の活動を紹介するのも良いのでは？（これも実施済みですか？）
5	士別市も高齢者が増え、これからますます大変な時代が来ます。社会福祉協議会の日頃の活動は本当にご苦労様です。仕事とは言え、大変だと思います。士別市の未来の為に頑張ってください。今後とも、まじめにしっかりと取り組んで下さい。お願い致します。
6	行政（福祉）と社会福祉協議会のからみ、違いが分かりづらい。買物サポートは個人負担（タクシー代）がかかりすぎだと思います。使える人はいないのでは？社協で車の確保、保有を考えて下さい。
7	限られた条件の中で、良くやって下さっていると思っています。地域福祉の推進が叫ばれていますが、自治連全体に浸透しているとは思われない。行政・社協が一体となった住民啓蒙が必要と考えています。行政に危機感がないのでは？
8	このアンケートをきっかけに社会福祉について調べてみようと思いました。
9	もっと民間からの人材を採用し、身近な意見を取り入れる等、一般市民の目線で活動していただきたい。
10	高齢者の相談窓口。
11	士別市社会福祉協議会のさらなる充実に期待しております。
12	何でもかんでも協議会には望みません。今のトップを変えて新たなリーダーで新たな発想で運営を進めていただきたい。何となくマンネリ化した状態にあると思っていますので。
13	もう一步踏み込んだ福祉活動を願います。
14	アンケートを受けて見て、多くの活動を知らないことに気づきました。更に日頃から関心を持てるようになればと思います。
15	地域福祉活動の拠点として、より一層の活動の推進が図れるよう支援などの実施をよろしく願います。
16	老々介護、在宅介護さらに死の問題と真剣に向き合う事が必須だ。脳死を死と認め、尊厳死や平穏死を進めることが極めて重要。そういう世論を喚起し一案を担うことも新しい社協の任務かもしれない。ふれあい広場の運営の見直し！開催日を短縮しその分、内容を充実させてマンネリから脱皮するなど知恵のだしどころではないでしょうか。民生委員児童委員も事務局体制を見直し行政から自立してはどうか。易しいようで難しいアンケートでした。
17	広範囲にわたり事業を行っていて感謝しています。
18	大規模災害における市外からのボランティアを受け入れるボランティアセンターの役割は早期の復興、復旧に大変重要であり市防災計画では社協が担う事とされていますが体制の整備や訓練などは行われているのでしょうか？市に言われないとやらない感じ？ですか
19	地域にある問題は複雑化していると思います。せっかく個々にはステキな施設・サービスがあるので、今あるものを活用して新しいシステムを作っても良いのではないのでしょうか。もっと、社協が活躍する場があるといいと思います。

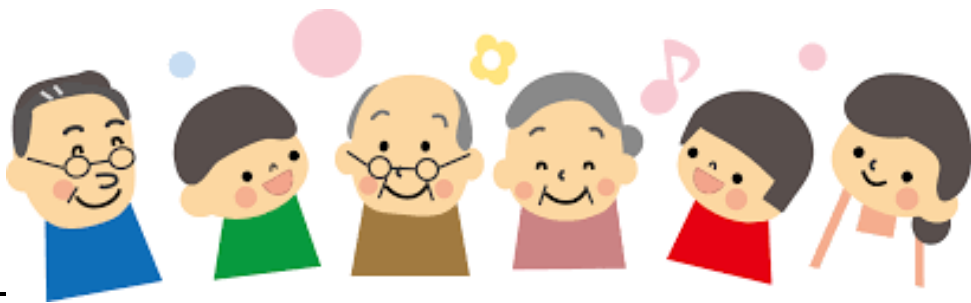


20	人手不足の心配は、少子化と高齢化の増加と相反する現象で負のスパイラルになっています。今、人口を増やすことで社会の構造（構成）そのものを変えていく必要があります、社会福祉協議会からその辺の事を国に発信してほしい。
21	「議会」という名称から法人の概要が把握しにくい。
22	福祉事業の受皿だけでなく協議会として前面に立つての取組む姿勢を期待する。（年ごとに、何か1つの事業に特化するような）
23	知らないことがたくさんあるので、高齢者や障がい者だけでなく支援があることも分かると思います。広報誌も、もう少し興味が湧くような紙面になると思います。
24	今後とも、今まで通りよろしくお願いします。ありがとうございました。
25	11月10日の映画上映とても楽しく過ごすことが出来ました。本当に一日一日大切に過ごさねばと常に思っています。私も主人に1日のうち少なくとも「ありがとう」の言葉を2～3回、口にしています。お互いに持ちつもたれつの仲です。これからも良い映画があれば何度でも上映してほしいと思います。映画館のない土別で最高のプレゼントです。これからもよろしく申し上げます。これからも益々のご繁栄を祈っています。
26	この年齢で参加できることがあれば、これからも出席したいと思っています。
27	社協開催の講演会をもっと身近な人のお話を聞きたいと思う。遠い地域からの人材の話では、あまり身近に感じず、足が遠のいてしまいます。
28	中央に一局集中するのではなく、地方の高齢者にも社会福祉協議会としての講演会や活動内容を普及してほしいものです。
29	土別の福祉行政の要として頑張っていられることに感謝。名寄市社協の事件もあります。あのようなことのないよう市民の信頼に応えるお仕事をされることを願います。頑張ってください。
30	社会福祉協議会の広報誌は記事がボランティア関係に偏っている気がします。例えば敬老の日などにちなんだ特別版などを発行するなど、もっと高齢者を敬ったり、高齢化の現状を伝えたりする記事を期待します。
31	困りごとがあっても事務所に行っても相談しやすい造りにしていない。入りづらいと思われる。社協だより等を通じてこんな相談には、このような対応をし、改善しましたというような具体的な事があると身近に感じられる。「何でも相談して」では勇気をもって相談に行きづらい。
32	社協の活動はほとんど知りませんでした。以前、旭川市の活動を知る機会があり子育てに関する事を積極的に行っている事を知り、土別市社協が子どもの取組みをしていないことに驚きました。土別は高齢者や障がい者の方々だけを対象にしているのだと思っていました。社協の活動もその時、市町村単位で違うことを知りましたが、子育てにも目を向けてはどうでしょう。
33	社会福祉は住民の生活全般にかかわる大変幅広い内容であるため、逆に何をやっているのか、住民が十分理解できていない面もあるような気がする。社会福祉協議会は「何のためにどこと連携してどのような活動をしているのか」「年々増加する社会福祉予算がどのように使われているのか」今以上にわかりやすく住民に理解してもらう必要があると思います。
34	社協でこんなに多くの事業に取り組んでいることを知り、感謝しています。ボランティア活動の人数がもっと増えると思います。
35	頑張ってくださいと思います。
36	・補助金がどう生かされているかの確認と指導。 ・机上での仕事ではなく、足での仕事、作業が大切になってくると思う。（高齢者が多くなり歩行できない人も多いと思う）。 ・ボランティア会館（仮称）等があればいいと思う。
37	頑張っていると、いつも感じています。
38	行政や地域の福祉団体、自治会等と連携を計りながら将来を担う若者、子ども達が福祉・ボランティアに興味、関心を持ってもらえる様な取組をお願いしたい。 例）課外授業にボランティアを取り入れる、道徳の授業を利用し福祉に関心を持ってもらう等。

39	大変なお仕事だと思います。これからも充実した活動の継続をお願いします。
40	土別市にはたくさんの老人施設がありますが随分人手が不足しているようで老人も自分の事は、出来る限り自宅で生活したいと思っています。（それには地域の見守りが必要ですね）
41	市民にとって行政(役所)よりも頼れる、頼られる社協になってほしい。市民との距離が近い存在となってほしい。
42	何事にも明るくスピード感のある対応に感謝しております。
43	どんな事をしているのか、知らない人が多いと思う。
44	活動している場所があまりない。
45	社協さんの役割は今後ますます重要になってくると思います。仕事が質・量・種類ともに増加、多様化し、大変だと思いますが引き続き頑張ってください。
46	除雪などの手助けを、もう少ししていただけたら嬉しいです。子どもが病気の時、十分お世話になったのでとても感謝しています。
47	いろいろな事をやっていると思うが、詳しいことが分からない。何をやっていて地域の人はどう活用するかのPRも必要では？
48	いつも土別市の為に、尽くしていただきありがとうございます。感謝です。分かりづらい言葉、特にカタカナ表記にちょっと戸惑うことがあります。時代の流れでしょうか。（ケアマネとかワークショップとか）日本語にするのも難しいですが・・・。
49	・市民が誰でもボランティアに参加する工夫をもう少しお願いしたい。 ・活動の見える化。（住民にもっと知ってもらう）
50	歳末支援金等の分配方法に再考が必要ではないでしょうか。
51	色々大変ですが頑張ってください。
52	真摯に取り組んでください。
53	福祉の話は高齢者に対して対応しがちだが若者が住みやすい環境作りを行わないと支える若者が流出してしまう。若者に対する支援も考えて頂きたい。高卒社会人の手取りでは冬は厳しい。
54	役所を退職して貴会に再就職をするようですが、毎年の様に退職者が出ます。何年も同じ人が居座るのではなく、次の人への交代を考慮しては？他の職場でもいつまでも（何歳）働いている姿が見受けられますがみっともないです。そう思いませんか？貴会から改革を是非！
55	よく活動していると思います。頑張ってください。
56	土別市社会福祉協議会と地域住民との対話活動。
57	健康長寿日本一を目指して頑張りましょう。健康第一で！
58	より良い活動を期待しています。
59	完全な民間ベースで福祉課題を解決したいとはじめた登別市の「きずな計画」が成果を上げてきているそうです。登別市社会福祉協議会が策定した「地域福祉実践計画」が参考になるのでは？ボランティア体験プログラム（年間計画）が市民に届けられると参加したいと考える人も多くなると思います。
60	何かと事業を進めていただき感謝申し上げます。
61	世話にはなりたくないけど、これからは出来ることがあれば人の手助けをしていきたい。
62	社協だよりに掲載されている物品寄贈の詳しい使い道を知らせてほしい。
63	社協の広報などで、社協を構成している構図やメンバーを掲載できないのでしょうか？直接メンバーの一員に話す機会があっても良いのでは、と思うこともあります。
64	障がい者として事業に参加していますが、社会福祉協議会の方の説明を聞き日常生活は、できる限り自分の力でやるようにしています。
65	このアンケートにより、社協の事業なんだと知った部分もあるが、役所の範ちゅうと思っていた部分もあった。広報（社協だより）も見るが、もっと活動内容の報告などが多くなると市民としても理解できるのではないかと思います。

## 「第3期士別市地域福祉実践計画」

このまちに暮らす人たち一人ひとりが、地域社会を担う一員として自分の地域について考え、みんなで住みよいまちづくりを行っていくための行動計画です。



## 第3期士別市地域福祉実践計画

「みんなでふれあい 支えあう つなごう地域の力」

発行年月 令和2(2020)年3月

発行



社会福祉法人 **士別市社会福祉協議会**

〒095-0015 士別市東5条3丁目1番地1 サポートセンターしべつ内

TEL. 0165(22)3012 FAX. 0165(22)3019

URL/<http://www.shibetsu-shakyo.jp/>

メールアドレス/shibetsu-shakyo@bz01.plala.or.jp